

# OKWave総合研究所 Monthly Report 2014.10

## うつ病

### 学生のうつ病



#### Note

本資料は、OKWave総合研究所が任意に選択したテーマに対する分析結果をまとめたものです。分析対象は、OKWaveのサービスに蓄積されたQ&Aデータです。毎月、季節や流行に合わせたテーマでの発行を予定しています。

本資料は、テーマに対する広く浅い分析結果を紹介するものとなっています。いくつかの異なる分析手法を適用し、それぞれセクションを分けて結果をまとめています。各セクションの内容はそれぞれ独立しており、興味のあるセクションのみでも理解できる構成になっています。

本資料は、より多くの方に共通すると思われる一般的な切り口での分析内容となっています。ご要望に応じたテーマと切り口を元に、より深い分析を行うカスタム分析も承っております。

無償でトライアル分析も承っております。お気軽に下記までご連絡下さい。

**OKWave総合研究所 法人窓口：**  
[okri\\_sample@ml.okwave.co.jp](mailto:okri_sample@ml.okwave.co.jp)

本資料に基づくお客様の行動およびその結果について、当社は一切の責任を負いません。ご利用に当たりましては、お客様ご自身でご判断下さいませようお願い申し上げます。

本資料における著作権およびその他すべての権利は、株式会社オウケイウェイヴに帰属します。本資料の全文または一部を転載・引用等される場合は、下記までご連絡下さい。

**OKWave総合研究所 広報窓口：**  
[okri\\_pr@ml.okwave.co.jp](mailto:okri_pr@ml.okwave.co.jp)

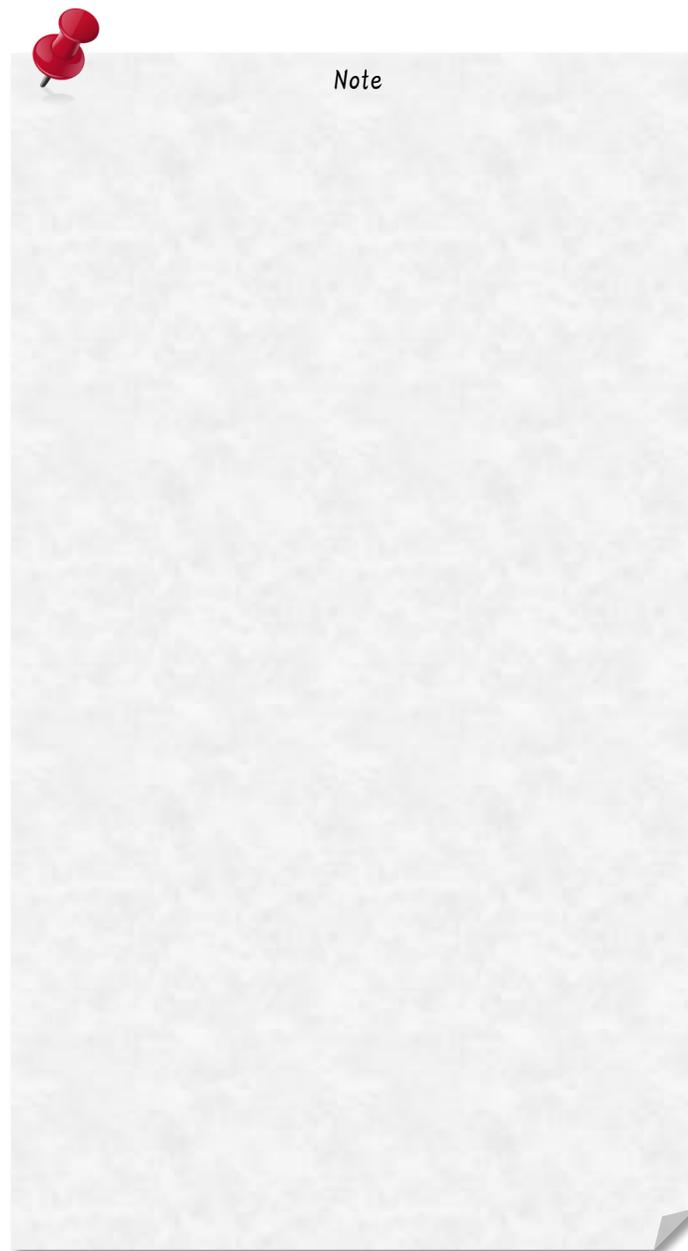


会員数**250万人**

月間利用者数**4,000万人**以上

Q&A総数**3,000万件**

カテゴリ数**約1,000**カテゴリ



Q & A には発見がいっぱい!

 OKWave総合研究所



## 質問

暇なときにでも 2014-04-20 12:27:31 質問No.8561773

解決済み **Q どうして質問に早く丁寧に答えてくれるのですか？**

閲覧数109 | ありがとう数6 | 気になる数0 | 回答数6

covacova1984 ↓

こんにちは。  
みなさんはどうして「教えて！goo」の質問にとても早く、ていねいに回答してくださるのでしょうか？

旅行用バックバックについて質問したところ、すぐに回答をいただいてびっくりしています。  
<http://oshiete.goo.ne.jp/qa/8561211.html>

いままで、検索の結果で質問・回答を閲覧したことはあったのですが、このたび初めて質問をして、とても早く、さらにはためになる回答をもらえて驚きです\(@o@)/!

どのように質問を探しているかとか、どういう質問なら答える気持ちになるのかなど、教えていただくと次の自分の質問にも役に立つと思っています！  
よろしくお願いします。

---

回答数 **6** 気になる数 **0**

「気になる」をクリックで回答がつけられた時に通知 しゅんぱんてんぱん

## 回答

bagus8 ↓ 2014-04-20 13:05:08 回答No.2

自分が回答できそうな質問を見つけると、まず質問者のお礼率を見て60%以上なら回答します。  
少しでも早く回答するのは、やはり他の回答者との競争心も働きます。ゆっくり回答して、自分より早く回答した人と同じような内容だったら、間抜けに見えますでしょう。

困ってる人に回答して、自分が役に立てれば喜びです。お礼をしてもらえて、役だったことが確認できればなお嬉しいです。

---

**お礼コメント**

covacova1984 ↓ 投稿日時 - 2014-04-20 14:20:38

ありがとうございます！  
たしかに、先に回答したものの勝ちというか、後の回答の(まうがハードル(期待する度合い))が上がりますね。お礼はやはり大事ということがよく分かりました。感謝いたします！

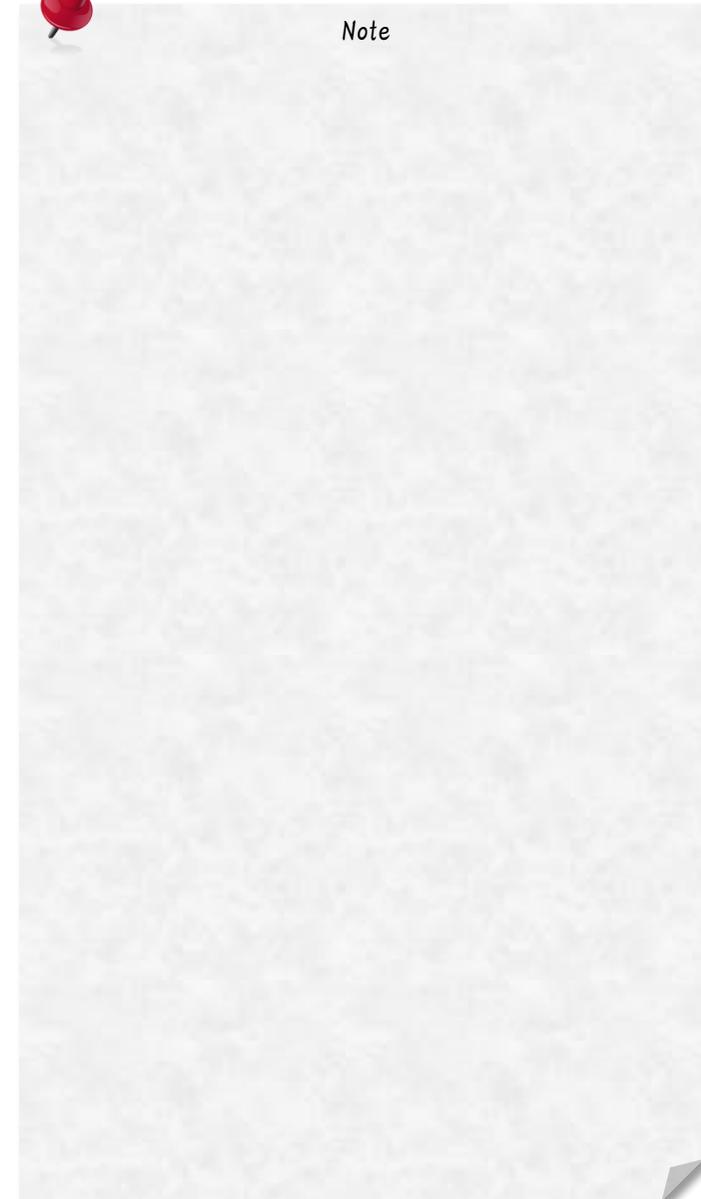
同意数 **0** (  -  ) ありがとう数 **0**

なるほど、役に立ったなど感じた思いを「ありがとう」で伝えてください

## お礼

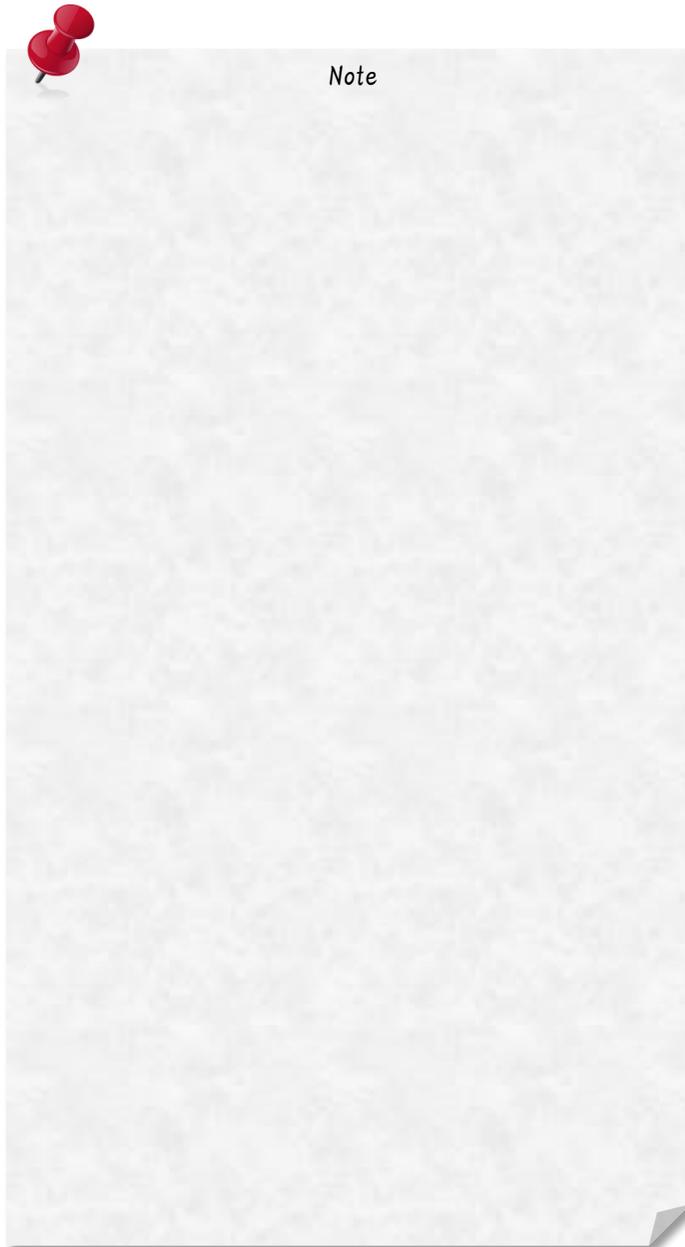


Note





1. Executive Summary
2. データ概要
3. データ
  - 3.1 属性傾向
  - 3.2 簡易集計
  - 3.3 時系列推移
4. 分析
  - 4.1 キーワード分析
  - 4.2 追跡分析
  - 4.3 経験分析
  - 4.4 マイノリティ分析





## 分析方法

## 分析結果から得られる事実

## 分析詳細情報

【簡易集計】「新生活」に関する質問データを月毎に集計  
 「新生活」のキーワードを含む質問データについて、月毎の質問データ数を調査  
 <この図からわかること>  
 新生活に関する質問数は3月が最も多い。2月から増加を始め、5月には収束する。



Figure 2 : 月毎の質問データ数

<考察> 4月からの新年度にスタートする新生活についての相談が多いと予想される。

## 分析結果に基づく考察



Note



Note

### 【キーワード分析とは】

キーワード分析は、ある特定のキーワードについて、関連するワードや話題を調査することで、ユーザーが製品やサービスに対して持つ悩み・要望・疑問などを明らかにすることを目的としている。

- ◆ ここでは、「新生活」を含む質問データで記載されているキーワードの傾向を分析した。
- ◆ 新生活に関する話題は、「結婚後の新生活に関する疑問」「大学での友人関係の悩み」「家具・家電の購入に関する相談」「引越し先の物件探し」に大別された。

### 【図の見方】

- ・ 位置に関係なくお互いの相対的な距離が近いほど同じ投稿内で記述されているワード
- ・ 水色<灰色<赤色の濃淡順に記述されている頻度が高いワード



Note

# 1. Executive Summary



## 1. キーワード分析

- 学生のうつ病について、中学・高校・大学でそれぞれ傾向に違いがあり、**特に高校と大学の間では男女間でも顕著に傾向が変化する**様子が確認された。

## 2. 追跡分析

- 学生は経験豊富な**年配層および主婦からの回答の評価が高く**、これらの人達が相談相手として適している可能性が示唆された。

## 3. 経験分析

- 学生は回答内容として、現在は**症状が改善している/改善に向かっている投稿者の経験談を高く評価**しており、経験者の体験談がうつ病に悩む学生の症状改善に効果がある可能性がある。

## 4. マイノリティ分析

- **復学を望む人/復学した人共に人間関係に不安を抱えており**、これらの状況を改善するためのサポートが必要であると思われる。



### Note

#### 【各分析の特徴】

- ◆ **キーワード分析**  
特定の事象に対するユーザの行動理由が特定できる。
- ◆ **追跡分析**  
お礼データを分析することで質問者が回答を受けてどのように意識・行動変化したかを把握すると共に、変化を促したキーワードを発見することを目的としている。
- ◆ **経験分析**  
製品・サービスの使われ方、使用に際して困難を感じるポイント・現状の不満点を把握できる。
- ◆ **マイノリティ分析**  
現在は非常に数が少ないものの、将来的に需要が拡大する可能性のある声を抽出することを目的としている。

※それぞれの分析結果や総合的に得られた知見から、商品企画、宣伝時期、コスト削減などに対するヒントを得ることができる。

## 2. データ概要





• **抽出キーワード**

「うつ病」 ※1

• **抽出期間**

2011年1月～2014年8月（約3年8ヶ月分）

• **抽出データ数** ※2

質問：	9,407件(全体)	1,516件(学生)
回答：	39,581件(全体)	1,559件(学生)
お礼：	24,525件(全体)	3,400件(学生)



Note

※1 「うつ病」「うつ病」「鬱病」「鬱病」

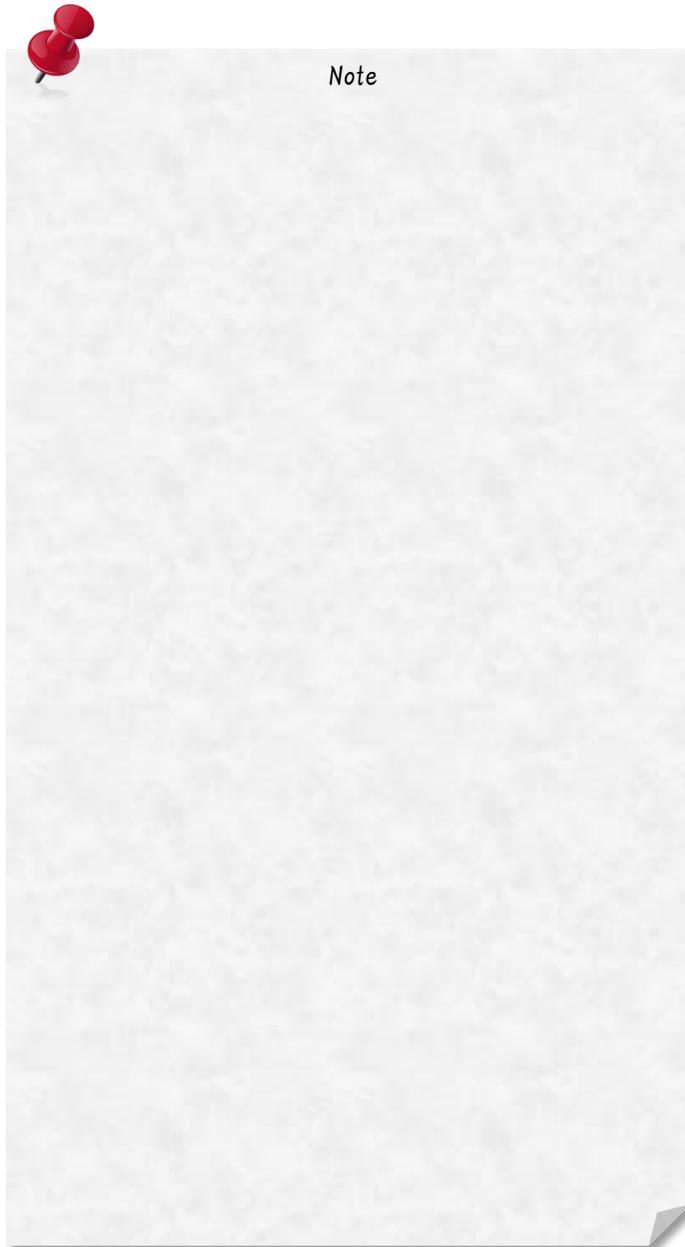
※2 抽出データ数：学生詳細

◆ 中学生：年齢 13～15歳

◆ 高校生：年齢 16～18歳 職業 学生

◆ 大学生：年齢 19～22歳 職業 学生

# 3. データ



## 3.1 属性傾向



「うつ病」に関心を持つ・関連する層

質問投稿者の性別・職業・年代の傾向を調査

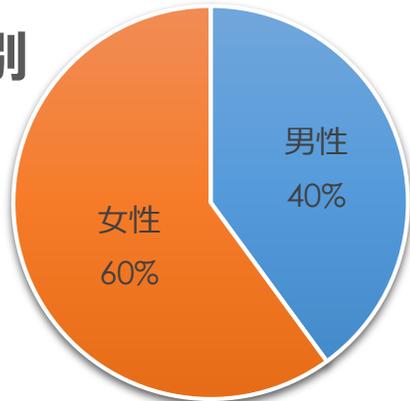


OKWave質問全データの偏りと比較して、女性、無職、30代~40代が多い。

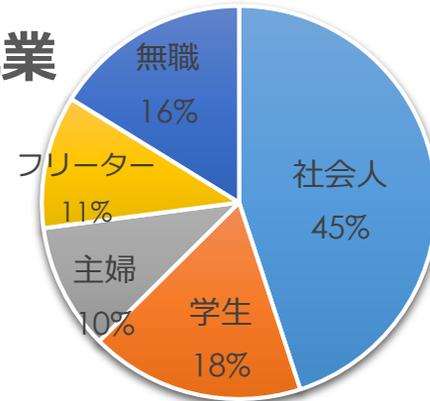


Note

性別



職業



年代

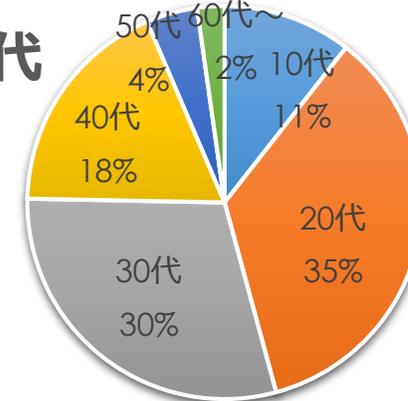
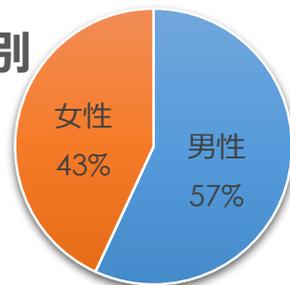
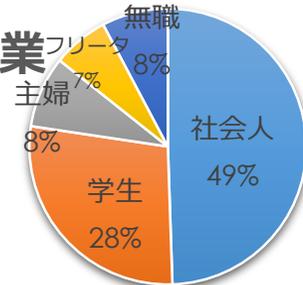


Figure 3.1.1 : 質問データ属性傾向

性別



職業



年代

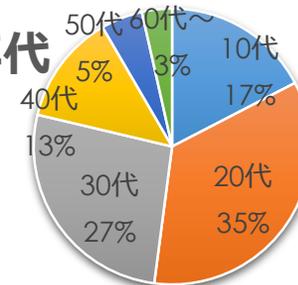


Figure 3.1.2 : OKWave全質問データ属性傾向

中学～大学生の質問投稿者の性別・年代の傾向

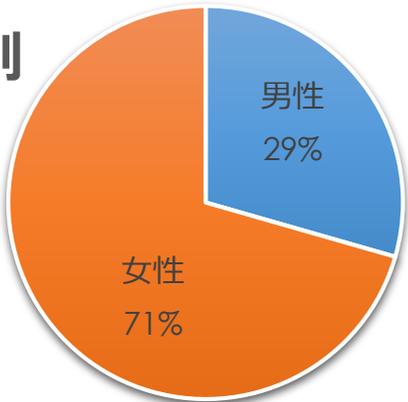
学生の質問投稿者の性別・職業の傾向を調査

**「うつ病」関連投稿者全体よりもさらに女性が多い。**

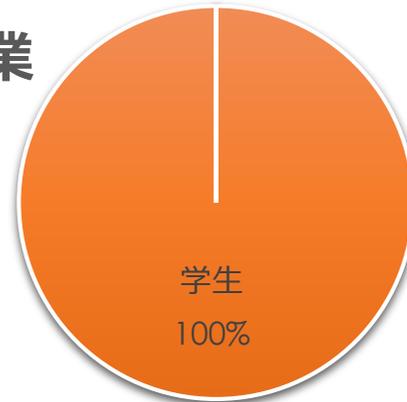
**Note**

- ◆ 中学生：年齢 13～15歳
- ◆ 高校生：年齢 16～18歳 職業 学生
- ◆ 大学生：年齢 19～22歳 職業 学生

**性別**



**職業**



**年代**

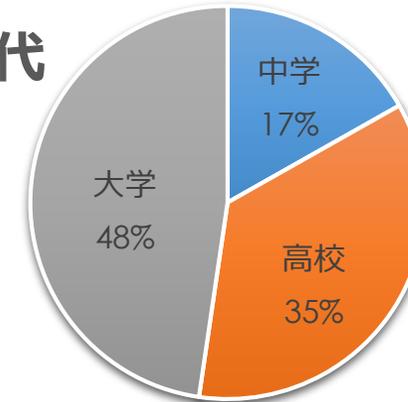
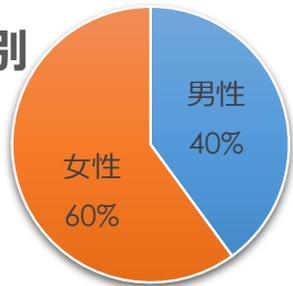
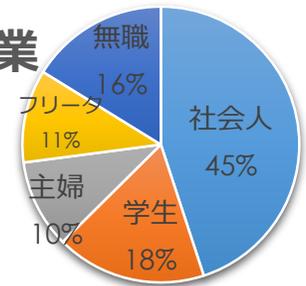


Figure 3.1.3 : 学生投稿者属性傾向

**性別**



**職業**



**年代**

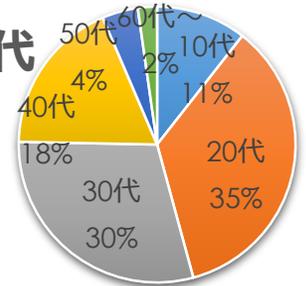


Figure 3.1.1 : 質問データ属性傾向

# 男女比率推移

質問投稿者の男女比率について、年毎の推移を調査

**2011年から2013年にかけて、男女比率に大きな変化は見られない。**

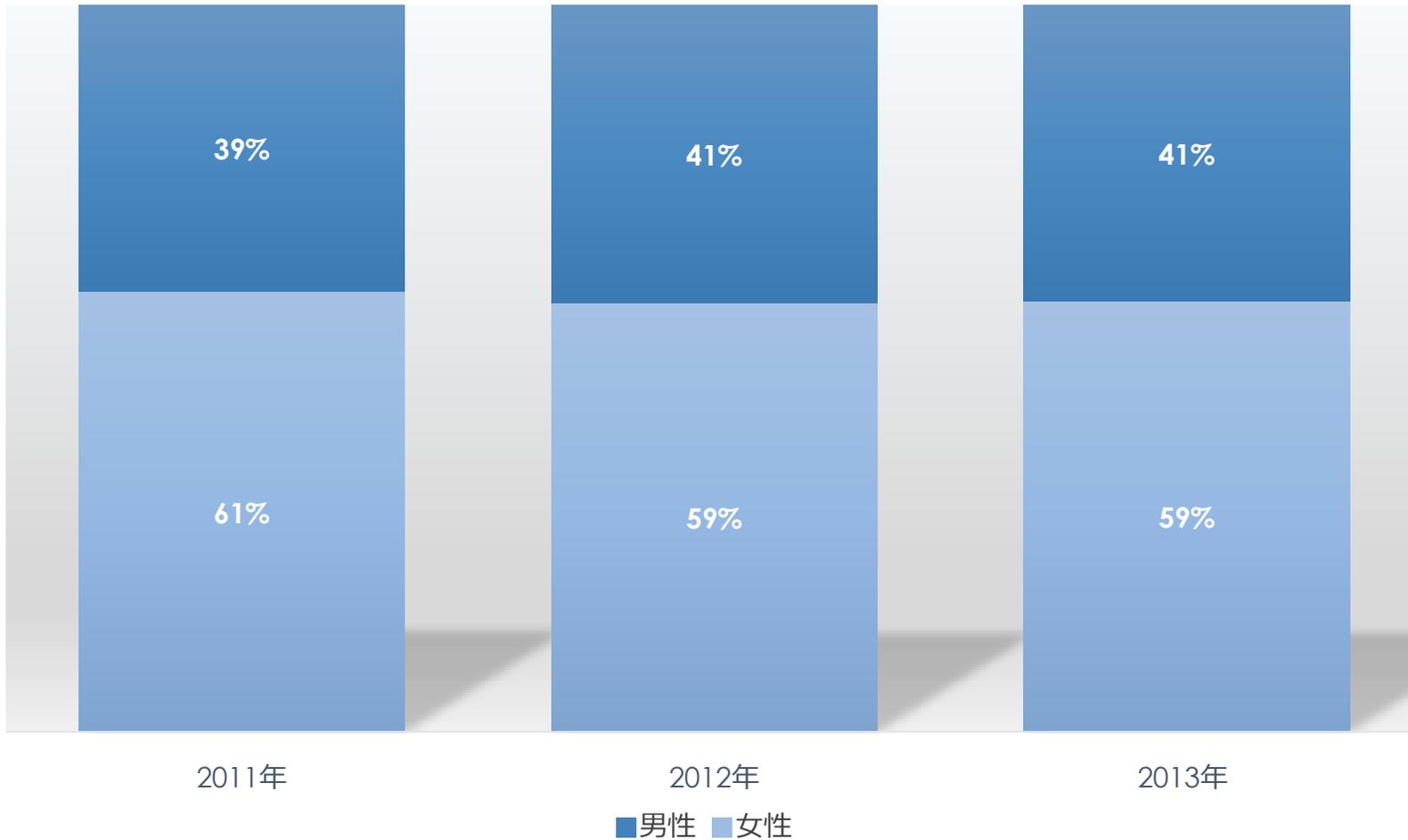


Figure 3.1.4 : 質問投稿者性別比率推移

Note

年	男性 (%)	女性 (%)
2011年	56%	44%
2012年	54%	46%
2013年	54%	46%

■男性 ■女性

【参考】OKWave全質問性別推移

# 年代比率推移

## 質問投稿者の年代比率について、年毎の推移を調査

**2012年から2013年にかけて20代、40代がやや増加する傾向が見られる。**

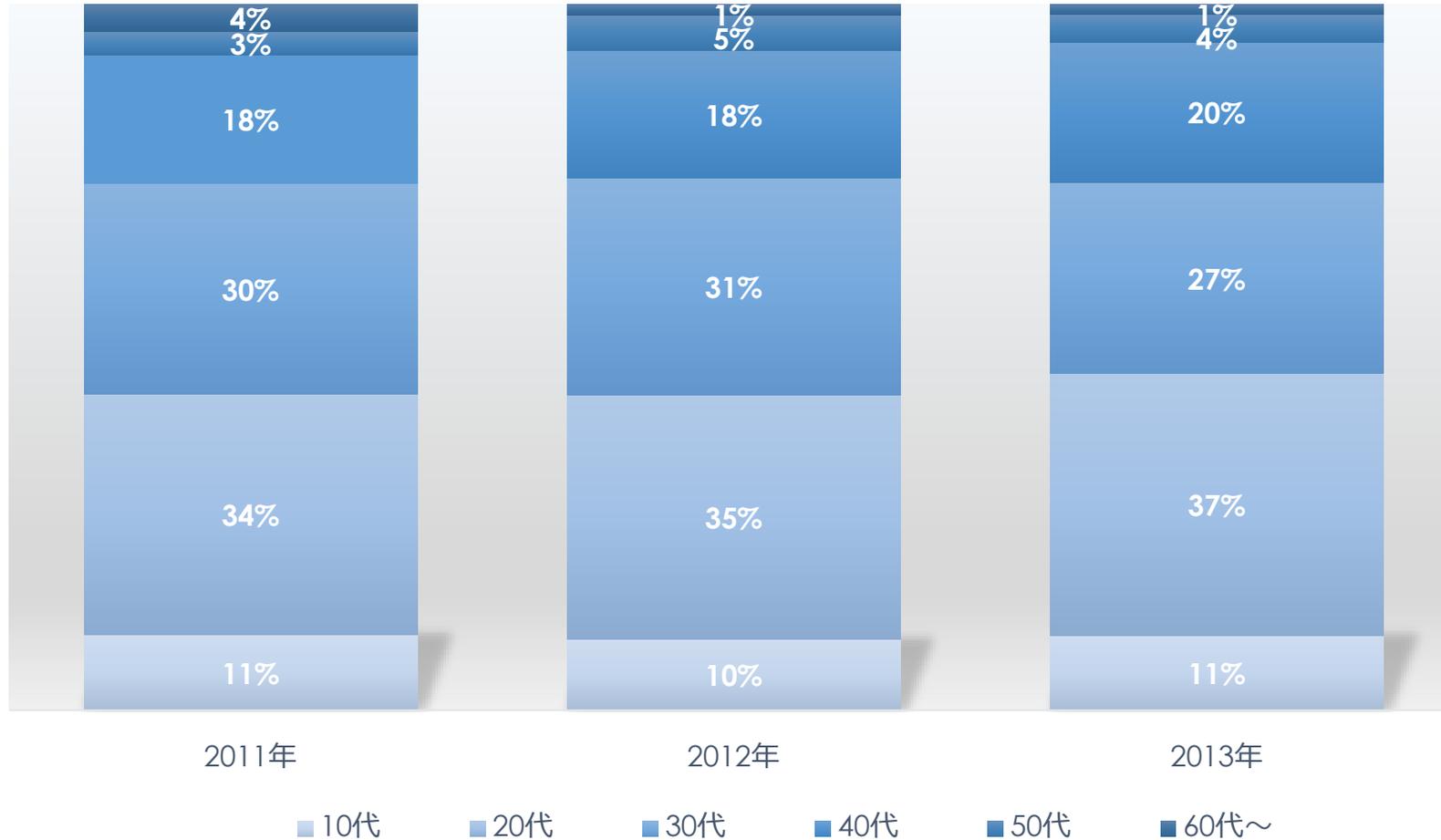


Figure 3.1.5 : 質問投稿者年代比率推移



## 学生からの投稿データ傾向

### 学生区分(中学・高校・大学)ごとの質問数と男女比率



**高校-大学間で男性比率が増加する。**

■男性 ■女性

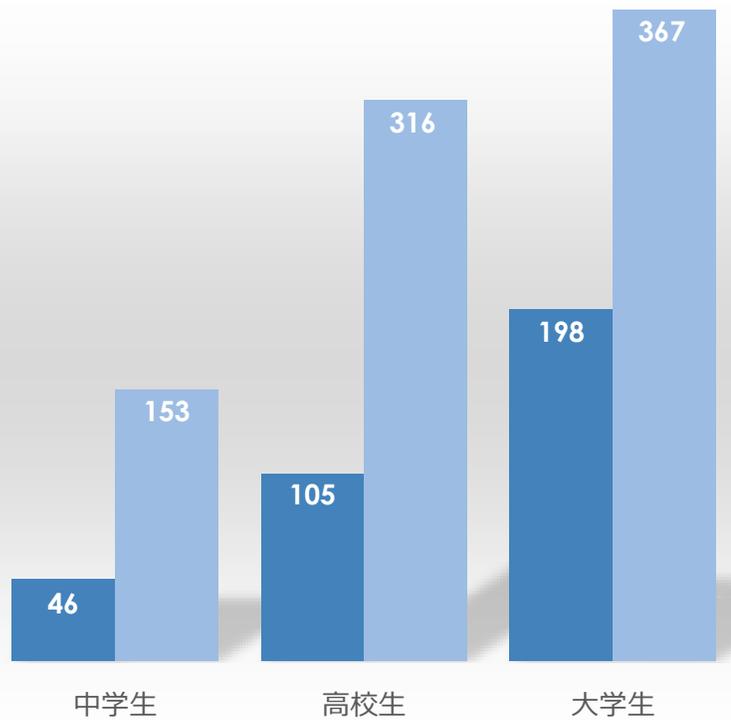


Figure 3.1.6 : 学生区分ごとの男女数

■男性 ■女性

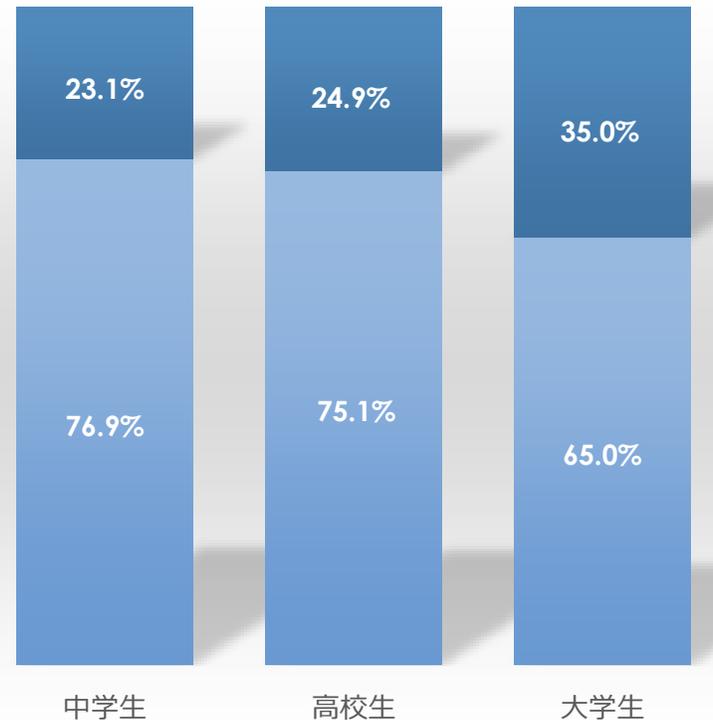


Figure 3.1.7 : 学生区分ごとの男女比率

Note

- ◆ 中学生：年齢 13～15歳
- ◆ 高校生：年齢 16～18歳 職業 学生
- ◆ 大学生：年齢 19～22歳 職業 学生

**考察 うつ病に関しては女性の方が早期にケアが必要になると思われる。**

## 3.2 簡易集計



# 月間累計質問数

## 質問データの月ごとの累計質問数を調査※



**うつ病に関する相談件数は3月が最も多く、12月に最も少なくなる。**

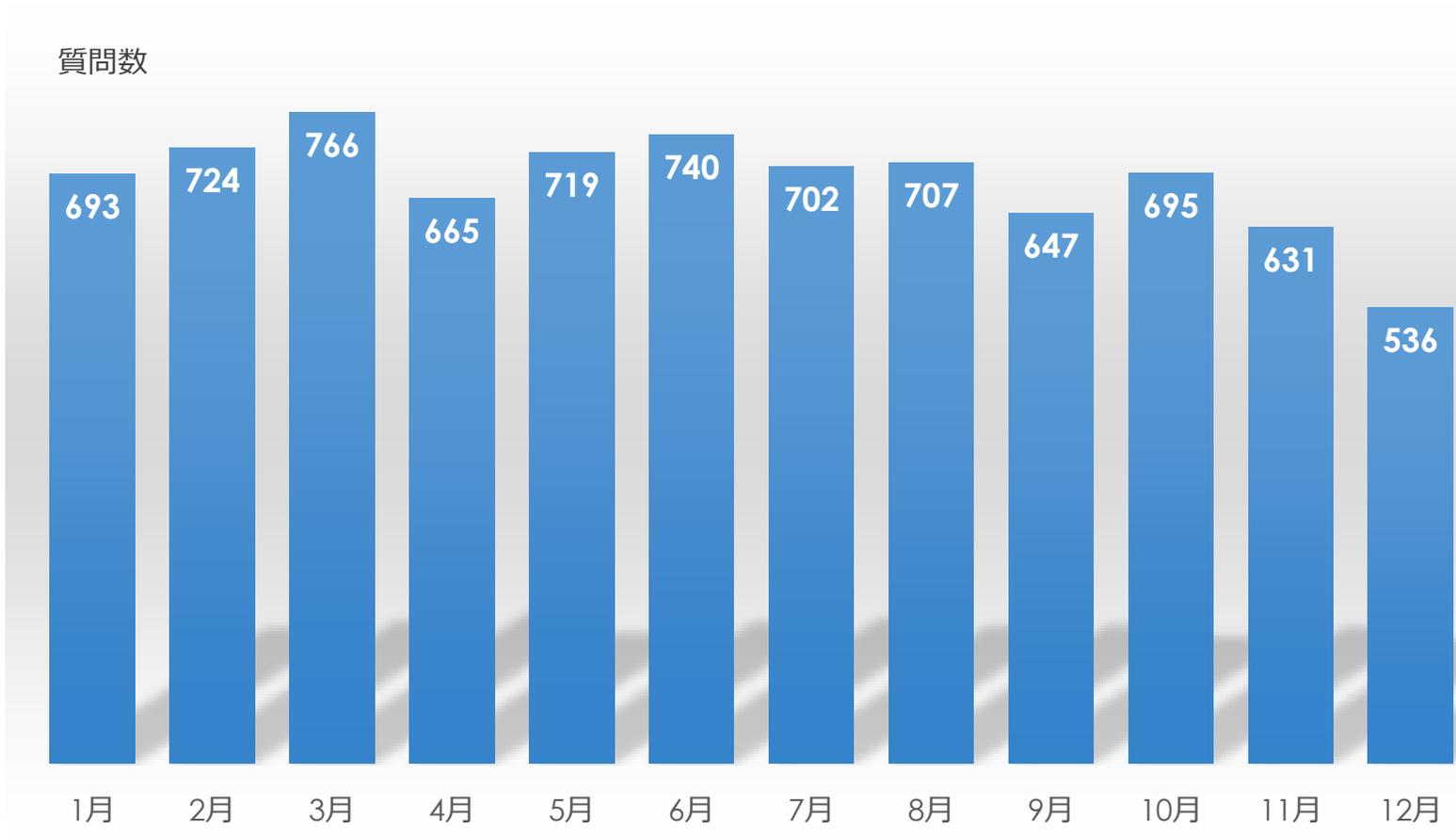
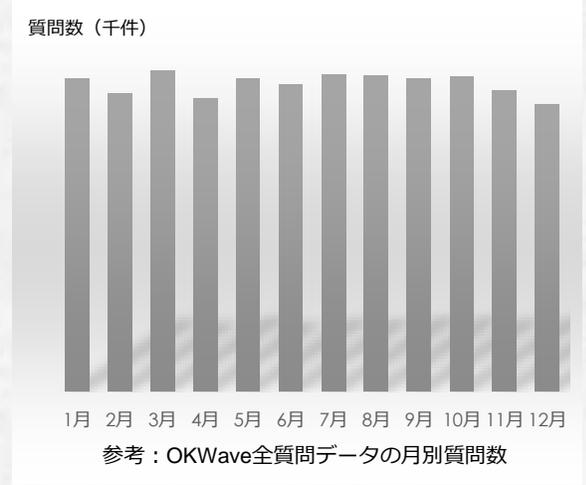


Figure 3.2.1 : 質問データの月別数



Note

※2011年1月～2013年12月の期間で集計



# 季節傾向

## 学生の質問データの月ごとの累計質問数を調査

**高校生は9月、大学生は年度末から4月、6月、10月以降に質問数が増加。**

質問数

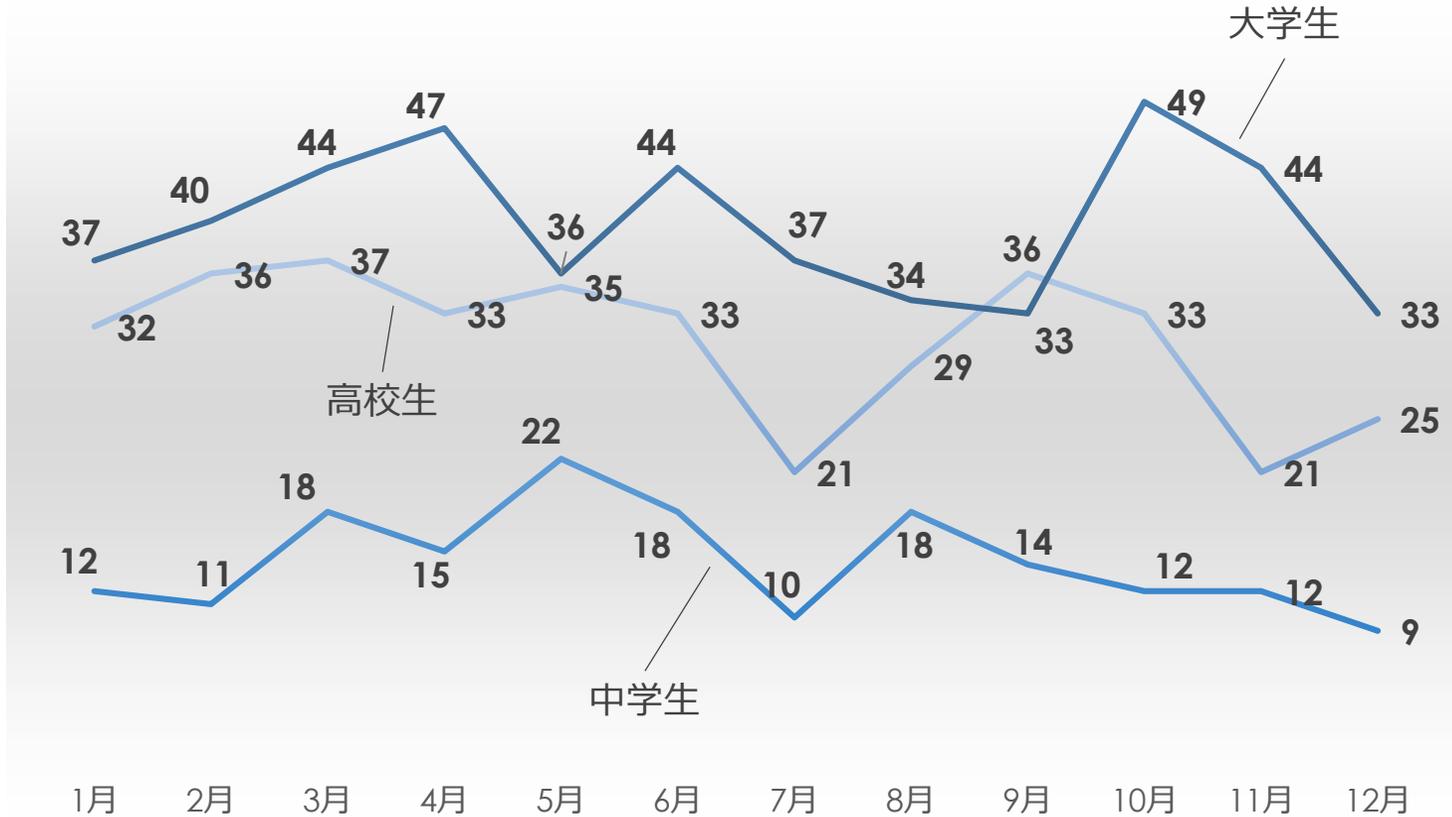


Figure 3.2.2 : 月ごとの学生区分別質問数

**考察 中学・高校生は長期休暇明けに、大学生はそれに加えて6月にケアが必要になると思われる。**

Note

質問数 (千件)

月	質問数 (千件)
1月	37
2月	40
3月	44
4月	47
5月	36
6月	44
7月	37
8月	34
9月	36
10月	49
11月	44
12月	33

参考 : OKWave全質問データの月別質問数

# 頻出キーワードの集計

## 質問データで使われている頻出キーワードを集計

「仕事・学校」「病院」「薬」が頻出キーワードになっている。

### ・ 全体



Figure 3.2.3 : 頻出キーワード(全体)

### ・ 学生



Figure 3.2.4 : 頻出キーワード(学生)



Note

## 3.3 時系列推移



Note

## 質問データにおける頻出キーワードの推移を調査



「会社」が順位を下げ、「生活」が上昇している。

### ・ 全体

順位	2011年	2012年	2013年
1	仕事	仕事	仕事
2	状態	状態	状態
3	病院	薬	病院
4	<b>会社</b>	病気	薬
5	病気	病院	悪い
6	薬	悪い	病気
7	悪い	<b>会社</b>	診断
8	気持ち	不安	気持ち
9	家	気持ち	<b>会社</b>
10	相談	話	相談
11	不安	相談	家
12	話	働く	話
13	<b>心</b>	家	障害
14	障害	<b>心</b>	<b>生活</b>
15	働く	診断	不安
16	症状	障害	<b>心</b>
17	飲む	症状	働く
18	原因	<b>生活</b>	症状
19	子供	飲む	飲む
20	家族	原因	辛い

Table 3.3.1 : 頻出キーワードランキング推移(全体)

### ・ 学生

順位	2011年	2012年	2013年
1	学校	学校	学校
2	病院	大学	状態
3	大学	病院	病院
4	病気	状態	家
5	親	親	悪い
6	悪い	症状	大学
7	状態	不安	診断
8	相談	相談	<b>心</b>
9	症状	悪い	<b>死ぬ</b>
10	友達	高校	話
11	辛い	病気	親
12	通う	薬	相談
13	感じる	通う	仕事
14	不安	辛い	不安
15	家	仕事	症状
16	高校	話す	友達
17	薬	<b>心</b>	病気
18	話す	家族	辛い
19	母	母	薬
20	診断	感じる	高校

Table 3.3.2 : 頻出キーワードランキング推移(学生)



# 質問数の多いカテゴリの推移

## 質問数の多いカテゴリの推移を調査



**職場・キャリア関係のカテゴリに対して、友人・生活関係のカテゴリが増加している。**

順位	2011年	2012年	2013年
1	メンタルヘルス	メンタルヘルス	メンタルヘルス
2	その他（恋愛・人生相談）	夫婦・家族	夫婦・家族
3	夫婦・家族	その他（恋愛・人生相談）	その他（恋愛・人生相談）
4	恋愛相談	恋愛相談	恋愛相談
5	社会・職場	<b>社会・職場</b>	<b>その他（ライフ）</b>
6	その他（ライフ）	<b>その他（ライフ）</b>	<b>社会・職場</b>
7	病気	病気	病気
8	その他（法律）	その他（法律）	人生相談
9	医療	医療	<b>友達・仲間関係</b>
10	その他（福祉）	<b>友達・仲間関係</b>	その他（法律）
11	転職	転職	転職
12	<b>その他（就職・転職）</b>	その他（福祉）	医療
13	その他（年金）	その他（年金）	その他（健康）
14	<b>友達・仲間関係</b>	その他（ビジネス・キャリア）	その他（美容・健康）
15	その他（ビジネス・キャリア）	<b>その他（就職・転職）</b>	その他（就職・転職）

Table 3.3.3 : カテゴリの質問数ランキングの推移

**うつ病に関する悩みは職場に留まらず普段の生活・人間関係の中にまでその原因が拡大していている。**



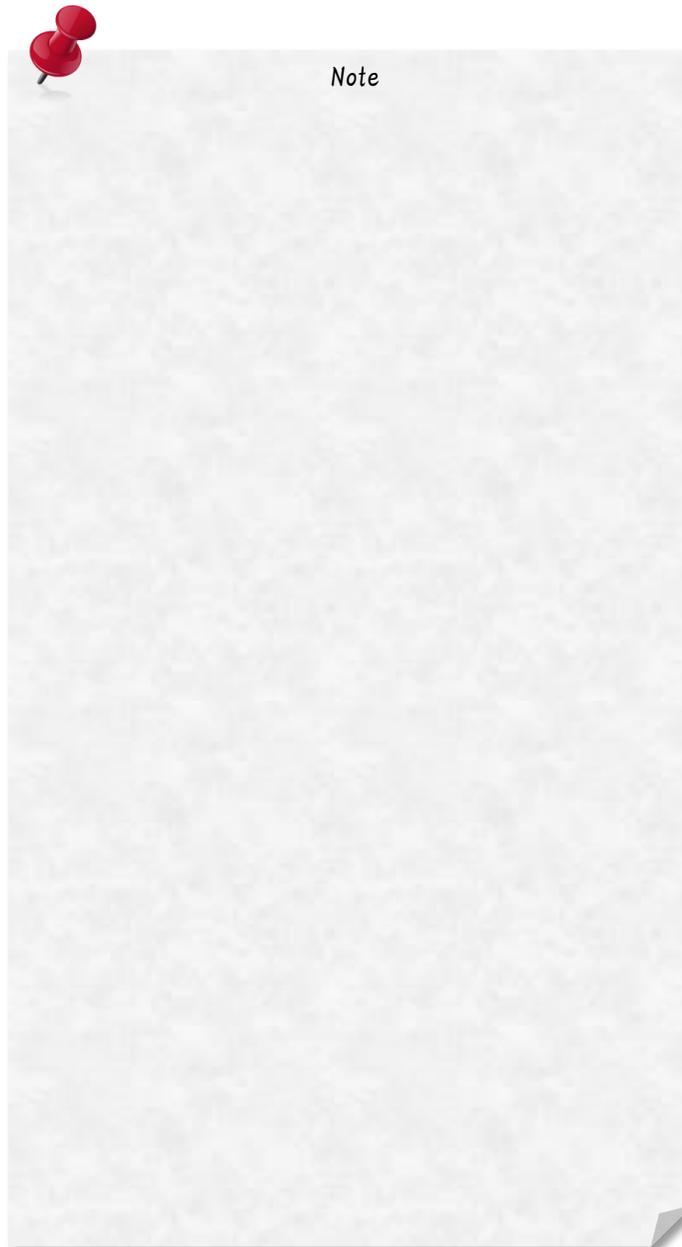
# 学生からの質問数の多いカテゴリの推移

## 質問数の多いカテゴリの推移を調査

 全体傾向のような特徴的な傾向は見られない。

順位	2011年	2012年	2013年
1	メンタルヘルス	メンタルヘルス	メンタルヘルス
2	その他(恋愛・人生相談)	その他(恋愛・人生相談)	その他(恋愛・人生相談)
3	恋愛相談	夫婦・家族	恋愛相談
4	その他(ライフ)	病気	夫婦・家族
5	夫婦・家族	恋愛相談	病気
6	病気	その他(ライフ)	その他(ライフ)
7	社会・職場	友達・仲間関係	友達・仲間関係
8	医療	社会・職場	人生相談
9	友達・仲間関係	就職	社会・職場
10	高校	その他(健康)	就職
11	いじめ相談	大学・短大	その他(美容・健康)
12	その他(美容・健康)	大学受験	いじめ相談
13	その他(カルチャー)	その他(美容・健康)	その他(社会)
14	その他(ダイエット・フィットネス)	医療	その他(法律)
15	その他(学問・教育)	高校	大学受験

Table 3.3.4 : 質問数ランキングの推移(学生)



# 4. 分析



## 4.1 キーワード分析



### Note

- ◆ キーワード分析は、ある特定のキーワードについて、関連するワードや話題を調査することで、ユーザが製品やサービスに対して持つ悩み・要望・疑問点などを明らかにすることを目的としている。
- ◆ ここでは、全体傾向と比較しながら学生のうつ病に関する悩みの傾向を調査した。
- ◆ その結果、中学・高校・大学で悩みの傾向に違いがあること、および退学・中退をした人が抱える悩みが明らかになった。





# 学生の「うつ病」に関する質問内容

## 学生が質問で使っているワードの関係性を可視化

**全体と類似傾向にあり、「学校」「対人」「病院」関連の話題が出現。**

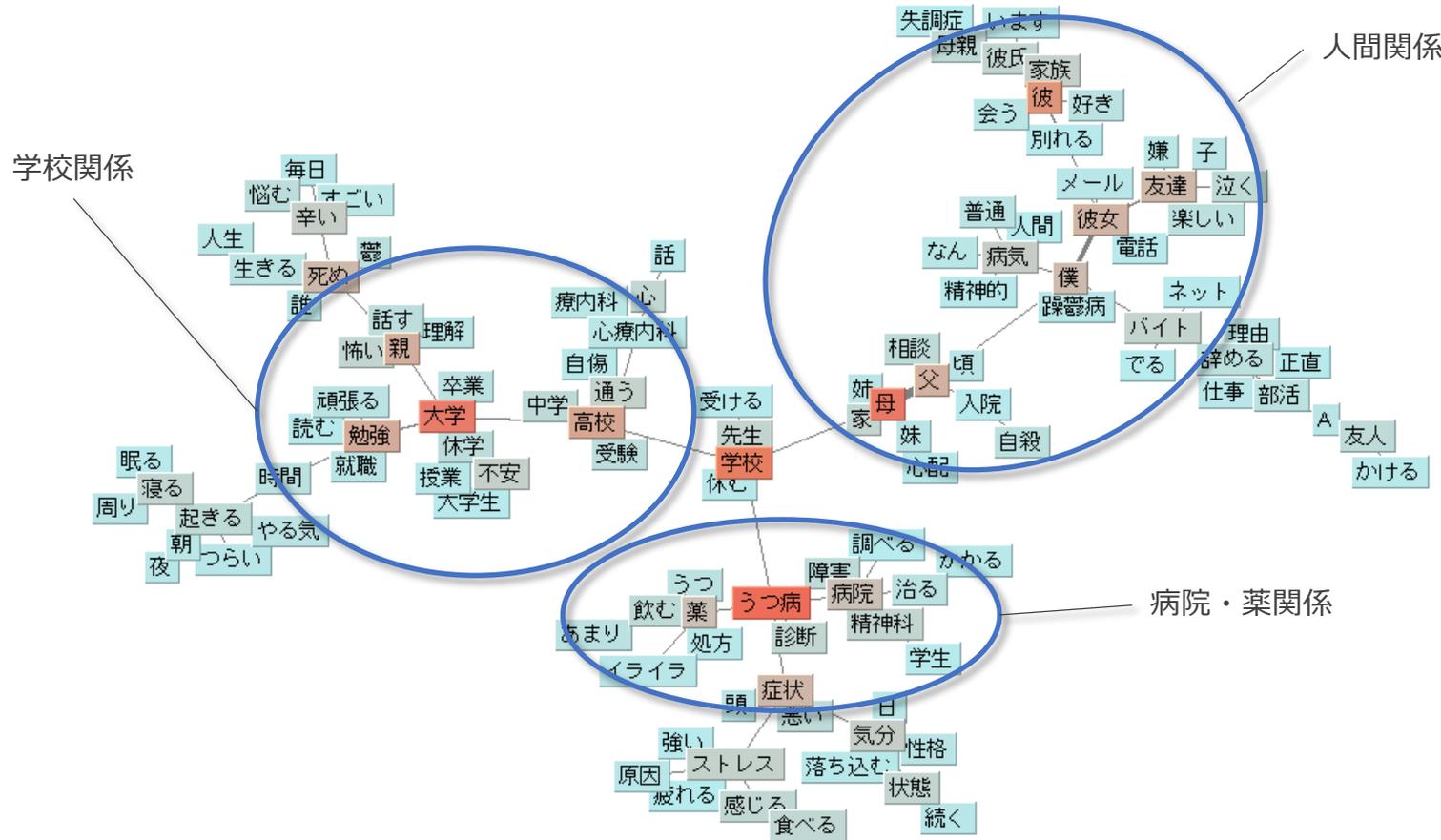


Figure 4.1.3 : 学生からの質問データワード関係図

Note

【図の見方】

- 位置に関係なくお互いの相対的な距離が近いほど同じ投稿内で記述されているワード
- 水色<灰色<赤色の濃淡順に記述されている頻度が高いワード

# 高校生と大学生の違い

## 高校・大学生それぞれからの質問内容の可視化結果比較

**高校生は「食欲」や睡眠関連など、実生活に関係したワードが多い。**

### ・ 高校生

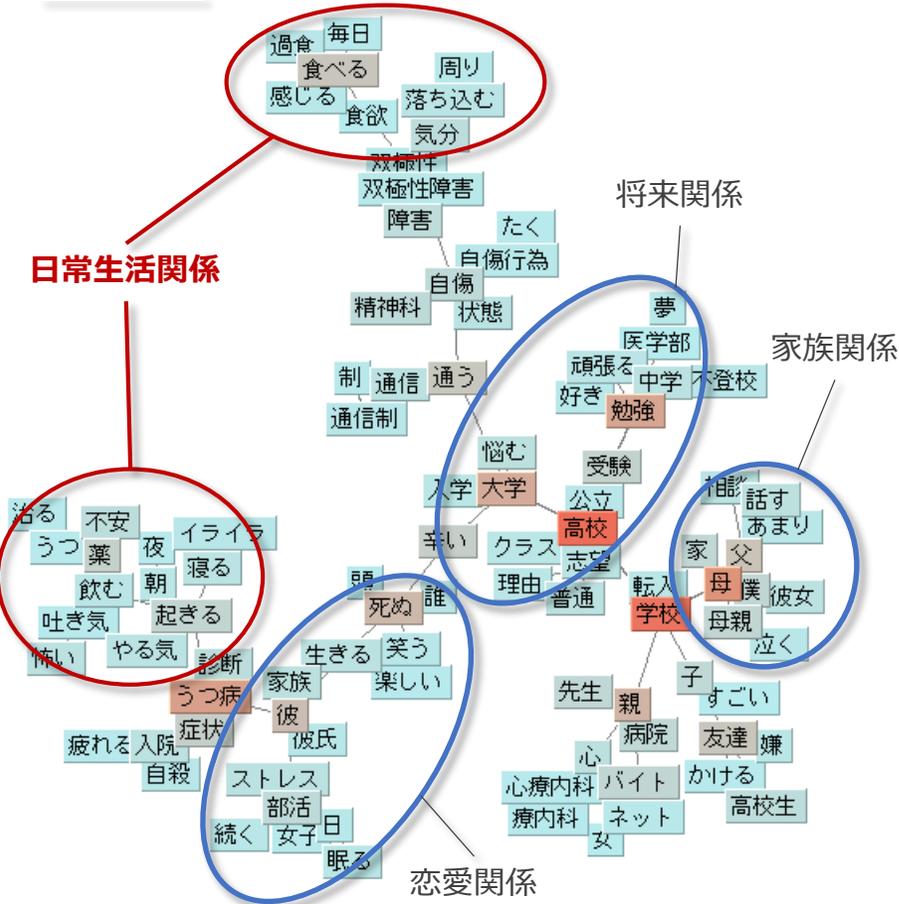


Figure 4.1.4\_1 : 高校生の質問ワード関係図

### ・ 大学生

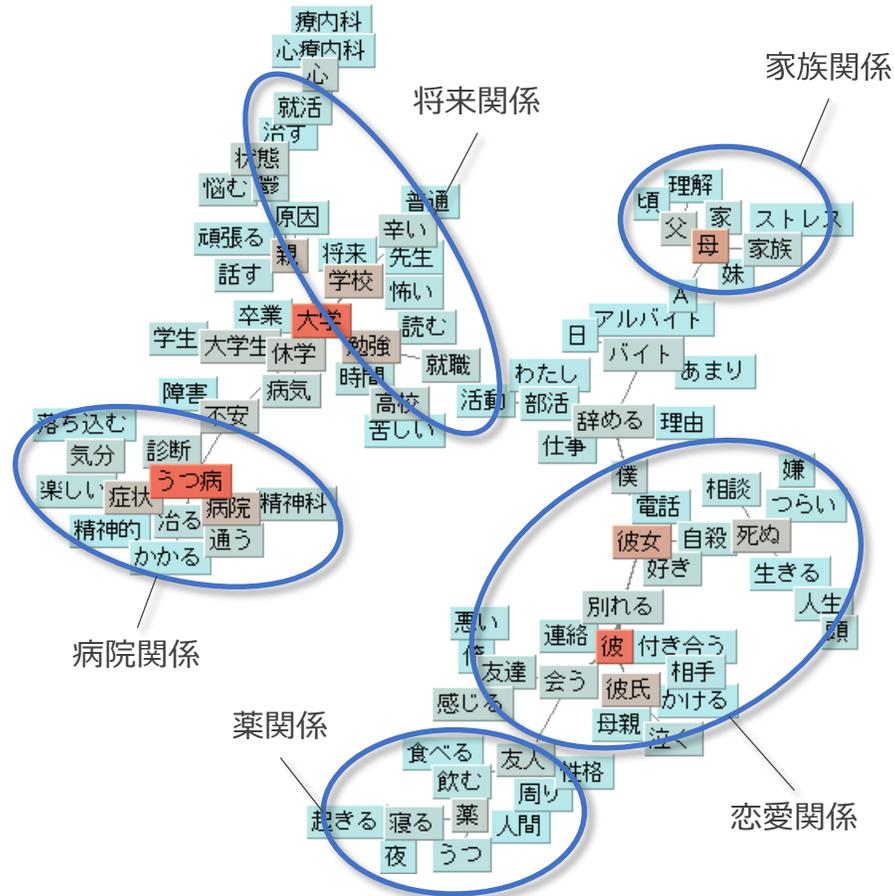


Figure 4.1.5\_1 : 大学生の質問ワード関係図



Note

#### 【図の見方】

- 位置に関係なくお互いの相対的な距離が近いほど同じ投稿内で記述されているワード
- 水色<灰色<赤色の濃淡順に記述されている頻度が高いワード

**高校生は日常生活における気分に敏感であるため慎重なケアが必要。**



# 「うつ病」に関する質問の男女傾向

## 質問データ中で使われているワードの関係性の男女傾向を可視化

**男性側に「休職」「退職」「彼女」「妻」、女性側に「死ぬ」「自殺」「母」「彼」が偏る。**

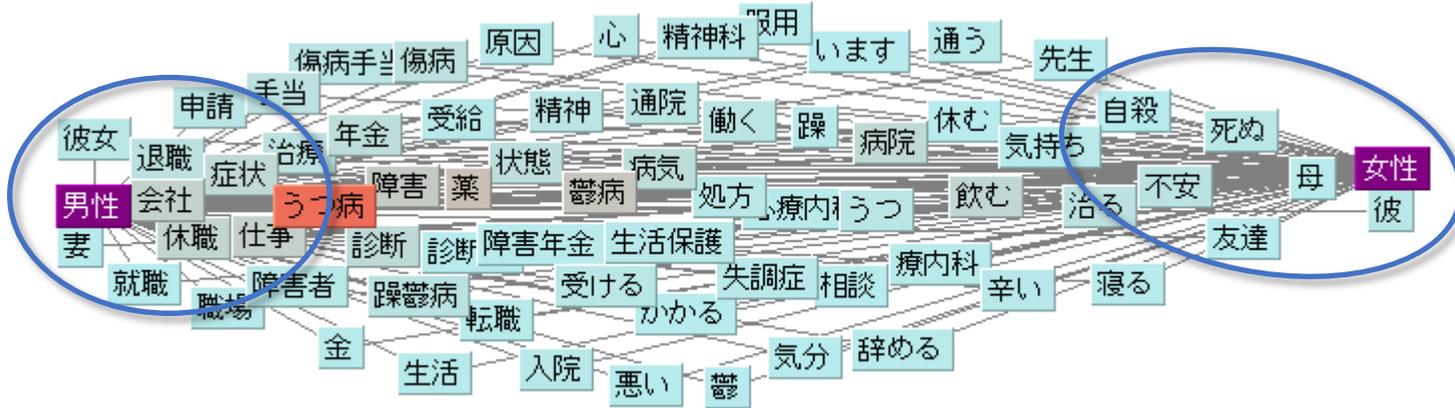


Figure 4.1.6 : 質問データワード関係図男女比較

**考察** 男性と違い、“休む”という選択肢のない家庭環境が原因である女性(特に主婦・学生)は退避手段として自殺を考えてしまっている可能性がある。

Note

【図の見方】

- 「男性」「女性」それぞれの近くに配置されているほどそれぞれの投稿者が記述している頻度が高いワード
- 水色<灰色<赤色の濃淡順に記述されている頻度が高いワード

# 「大学生」の悩み

## それぞれの質問内容の可視化結果比較



全体傾向にあるような他者への言及や、男女間の大きな差異は見られない。

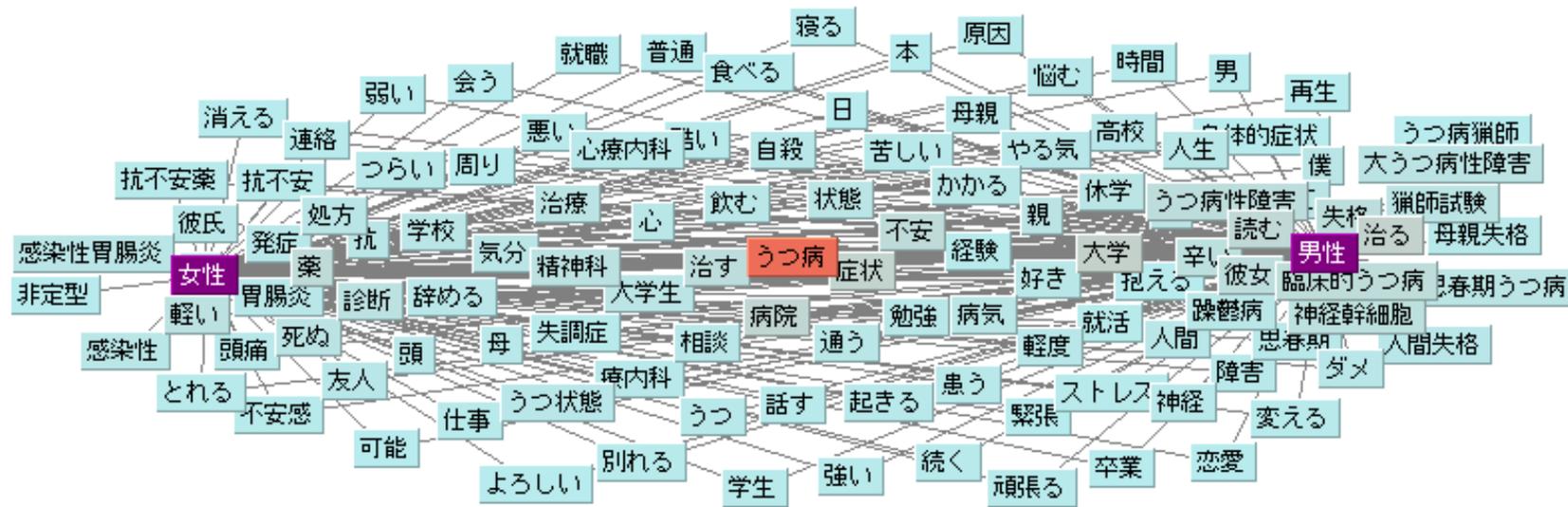


Figure 4.1.7 : 大学生質問データワード関係図男女比較



Note

### 【図の見方】

- 「男性」「女性」それぞれの近くに配置されているほどそれぞれの投稿者が記述している頻度が高いワード
- 水色<灰色<赤色の濃淡順に記述されている頻度が高いワード





## 将来に不安を抱く学生からの質問データ

### 質問データ

就職できるか心配です。現在大学を留年しています。留年した理由は、前期に軽鬱病になり、後期に回復したのですが、公務員になりたくなったので、大学を休学しました。合否はまだですが自己採点の結果、落ちているのは確実だと思います。そこで、大学院に復帰を考えていますが、将来の就職がとても心配です。留年してしまった理由を正直に話してしまうと、落とされてしまう気がするし、そうかといって留年してしまったうまい理由が思いつきません・・・**職安等々にも行きましたが、既卒の場合、職歴がないと非常に厳しいのが現実のようです。かといって、大学院に復帰したとしても将来に望みが無い気がしてなりません。**もう大手企業は諦めてます。留年してしまうと、それなりの企業に内定をもらうことはできないのでしょうか？

うつ病およびパニック障害と医師に診断されました。学校へ行こうとすると吐き気がし、過呼吸になります。人と会うのがおっくうで、外に出る気も起きません。信頼していた先生に勇気を出して相談してみると、**あなたの努力が足りてない。学校にバレると将来に影響するし、就職に不利になるからもっと頑張れと言われました。**親もまったく理解を示してくれず、逆に打ちけてしまうと親がうつ病になってしまう気がします。。学校がはじまることを考えるだけでも恐ろしいです。(中略)この事は学校には言わないほうがいいのでしょうか？

いろいろなことが不安です。後期はたまたまなのか、プレッシャーだったのか試験日あたりに体調を崩してしまい死にたいと思うようになり、ほとんどの単位を落としてしまいそうです。(中略)薬のおかげで、現在は安定していますが、大学を卒業できるかという不安や、病気の悪化、将来も考えていると心配でたません。**就職活動をするのが当然なのですが、両立するのは難しいと思ひ、病状の悪化も怖くて就活サイトに登録しただけで、実際には何もしていません。**両親は理解してくれていて、派遣社員でもいいんじゃない？と言ってくれます。ですが、やっぱり周囲の人間と比べると自分は・・・。といつも悲観的になってしまいます。

Table 4.1.1 : 「将来」関連質問データ

**考察 就職に対するプレッシャーが余計に不安を煽っている傾向が見られる。**



## 1. 中学・高校・大学に適したサポートの確立

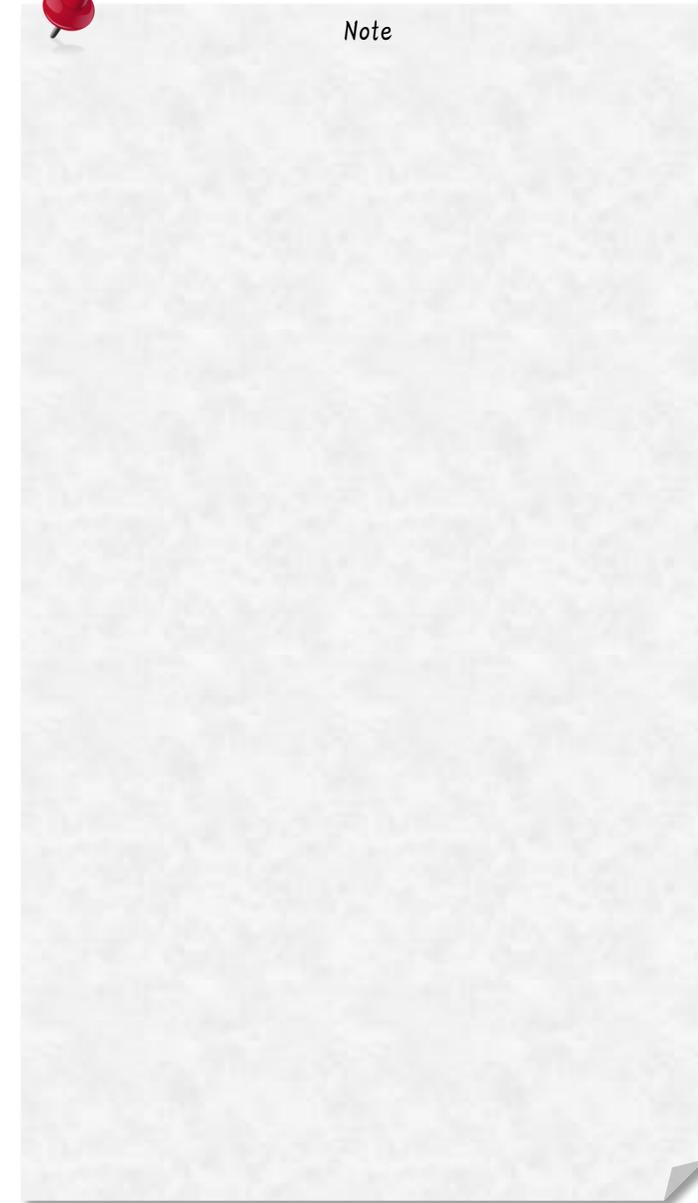
同じ学生でも、特に高校と大学の間には傾向に大きな違いがあるため、各年代に最適なサポートを提供することが重要であると思われる。

## 2. 退学・中退者への支援

うつ病を理由として中退・退学をしてしまった学生は、就職への不安が大きくなり精神的にさらに追い込まれているケースが見られる。退学・中退後次のステップへのサポートには需要があると思われる。



Note



## 4.2 追跡分析



### Note

- ◆ 追跡分析は、お礼データやベストアンサーを分析することで質問者が回答を受けてどのように意識・行動変化したかを把握すると共に、変化を促したキーワードを発見することを目的としている。
- ◆ 本セクションでは、ベストアンサーを分析することで、回答を受けたうつ病に悩む質問者のニーズ・悩みについての把握を行った。
- ◆ ベストアンサーに選ばれた投稿者の職業を分析したところ、学生は年配層や主婦からの回答を高く評価する傾向があり、これらの人達が学生の相談相手に適している可能性が高いことが示唆された。

評価の高い回答者の特徴

回答者の職業別回答数・ベストアンサー調査

「無職」のみ回答数に対してベストアンサーに選ばれる確率が低い。

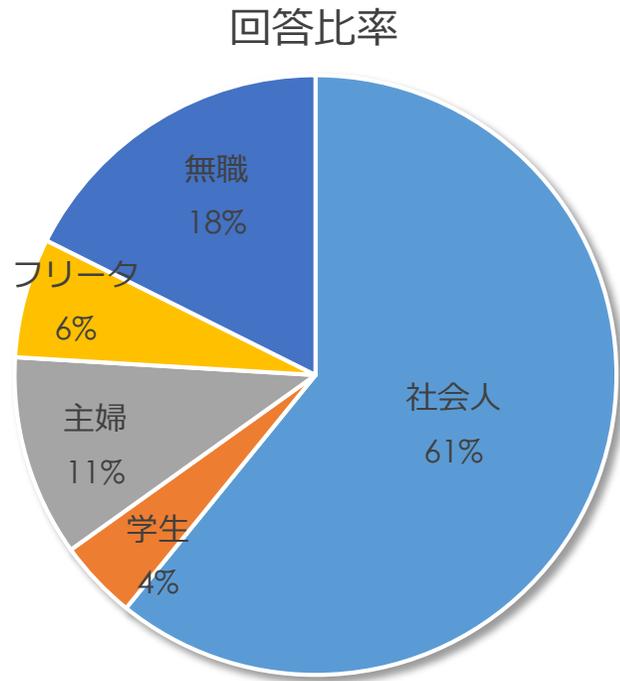


Figure 4.2.1 : 回答者職業比率

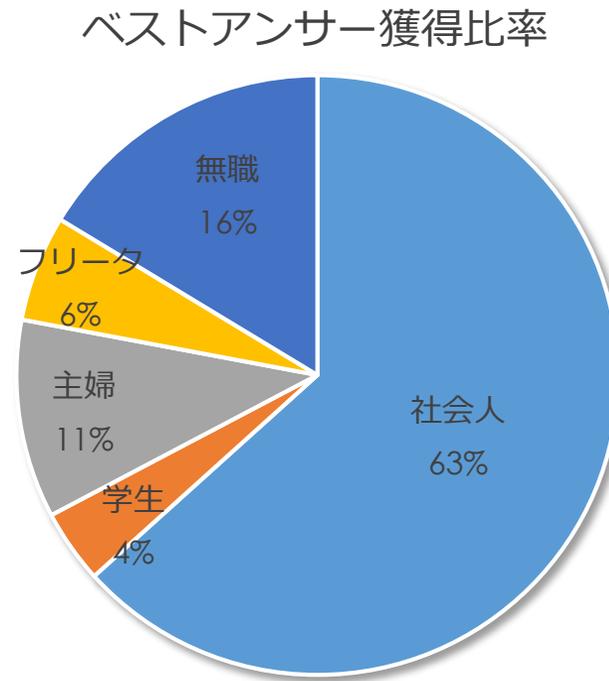


Figure 4.2.2 : ベストアンサー獲得者職業比率



Note

※「無職」は定年後の退職者が大半を占める

学生質問者に適した回答者

学生の質問に答えた回答者の職業別回答数・ベストアンサー獲得率調査

**「無職」「主婦」が回答数に対してベストアンサーに選ばれる確率が高い。**

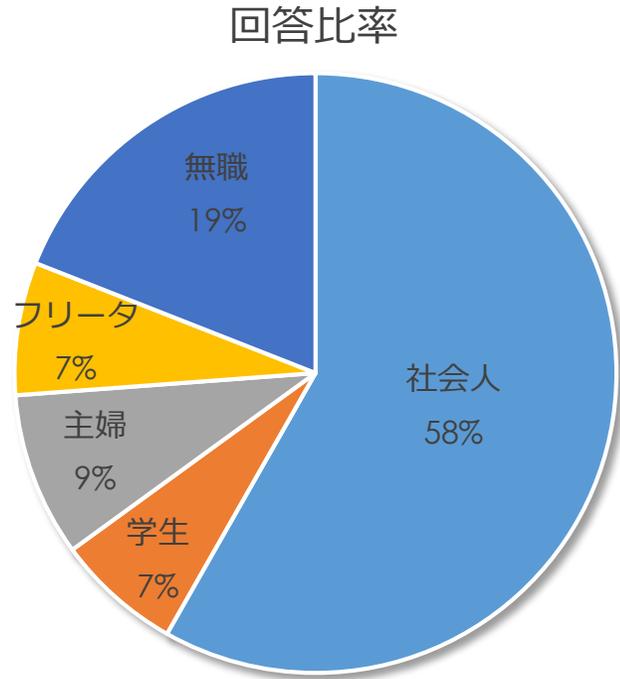


Figure 4.2.3 : 回答者職業比率

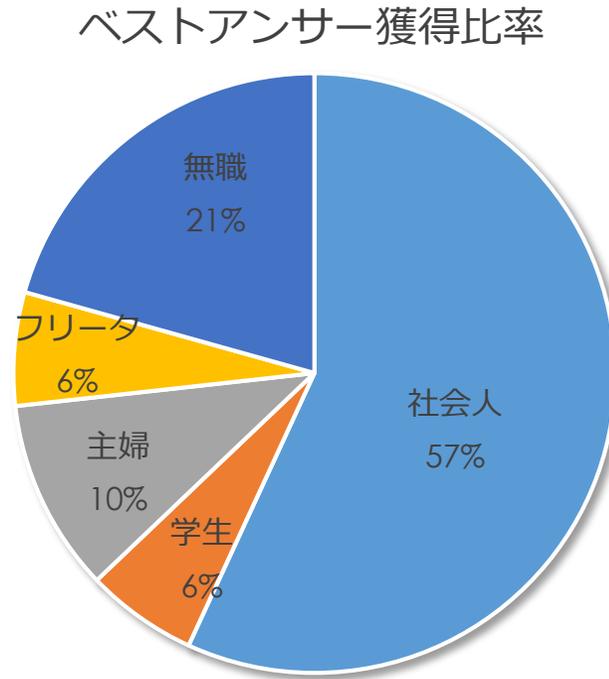


Figure 4.2.4 : ベストアンサー獲得者職業比率

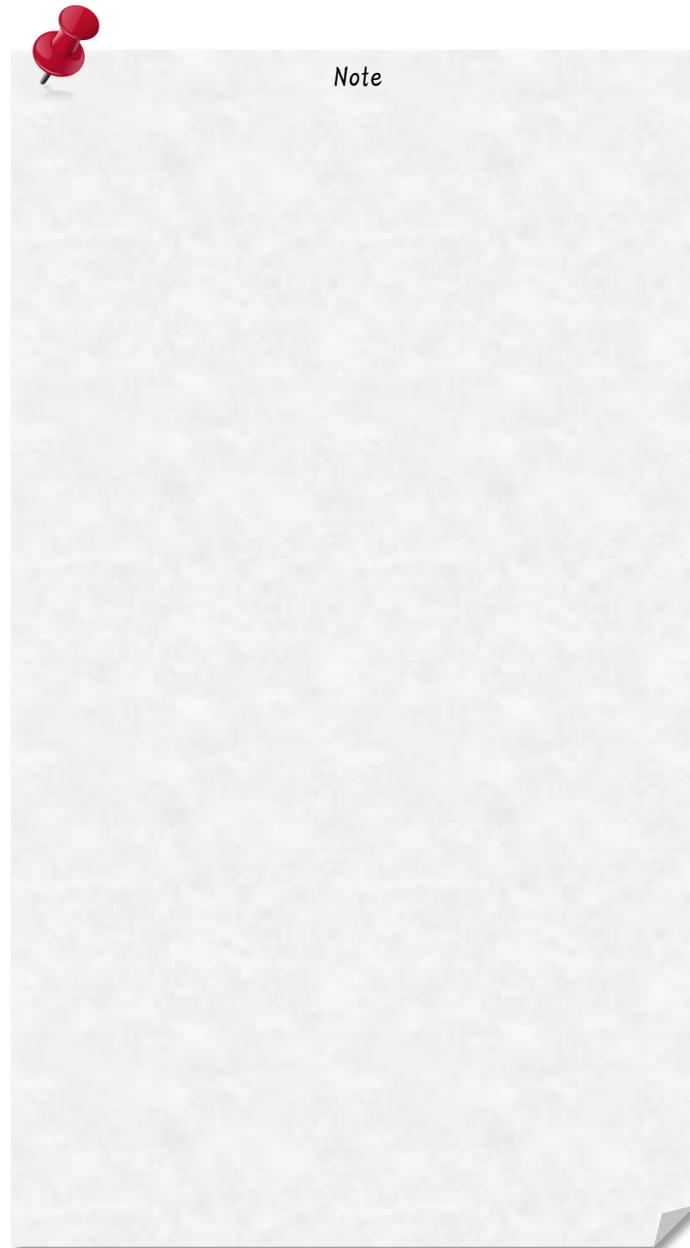
**考察** 社会人・主婦には同じ環境下にいる人が、学生には人生経験が豊富な人、または女性が相談相手として適しているという仮定が得られる。

Note

- ※「無職」は定年後の退職者が大半を占める

## 1. 地域コミュニティの活用

日中時間のある主婦や、退職した高齢者を学生の相談相手として教育機関に迎え入れることで、学生の悩み改善・教育機関と地域の交流など様々な相乗効果が得られると思われる。



## 4.3 経験分析



### Note

- ◆ 経験分析は、自らの経験・体験談を具体的に記述している回答データを分析することで、製品・サービスや日常生活での不満・悩みなどを明らかにすることを目的としている。
- ◆ 本セクションでは、回答内容とベストアンサーの関連性について分析を行った。
- ◆ 学生がベストアンサーに選ぶ回答内容を分析したところ、全体傾向と比較して経験談を高く評価していることがわかった。

回答内容比率・ベストアンサー獲得率調査

**経験談の方がベストアンサーに選ばれる確率が高い。**

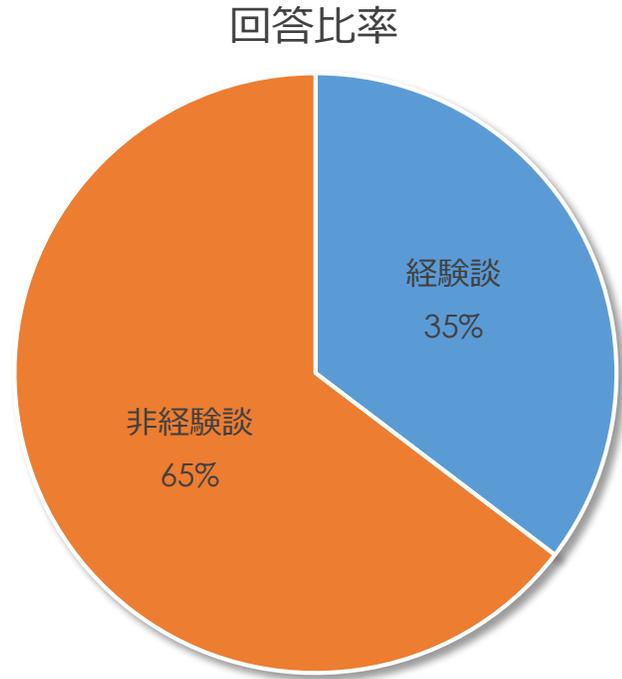


Figure 4.3.1 : 回答内容比率

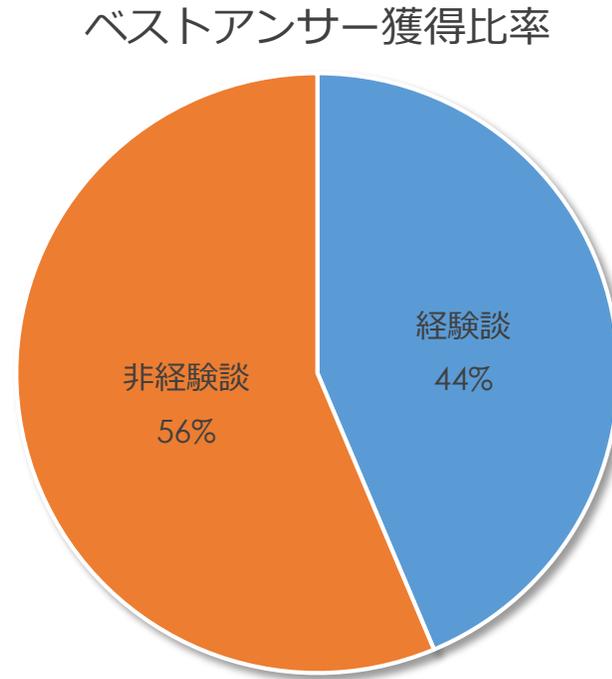
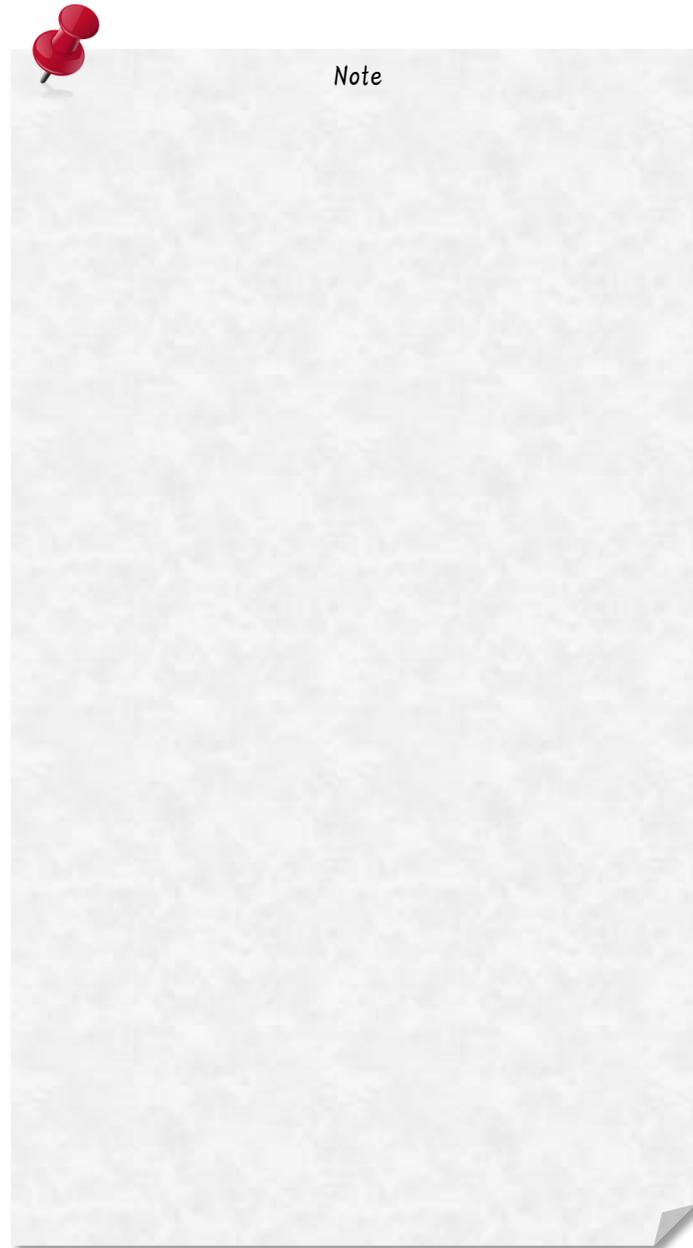


Figure 4.3.2 : ベストアンサー獲得内容比率



学生からの評価が高い回答内容

学生への質問の回答内容比率・ベストアンサー獲得率調査



学生の方が全体傾向よりも経験談をベストアンサーに選ぶ確率が高い。

回答比率

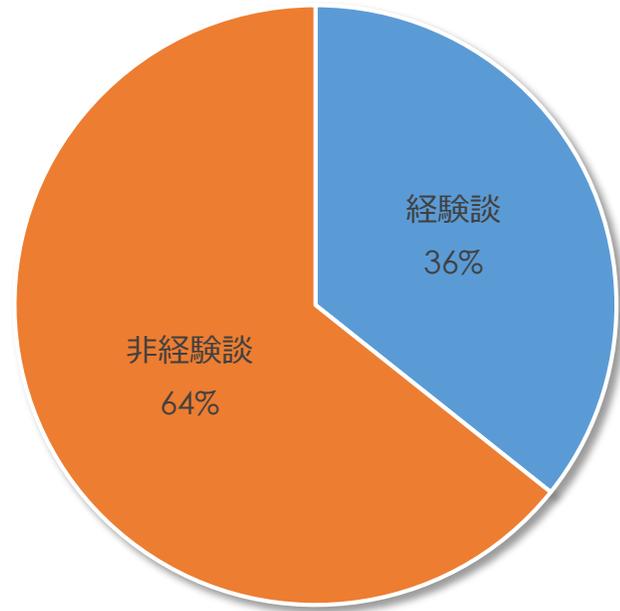


Figure 4.3.3 : 回答内容比率

ベストアンサー獲得比率

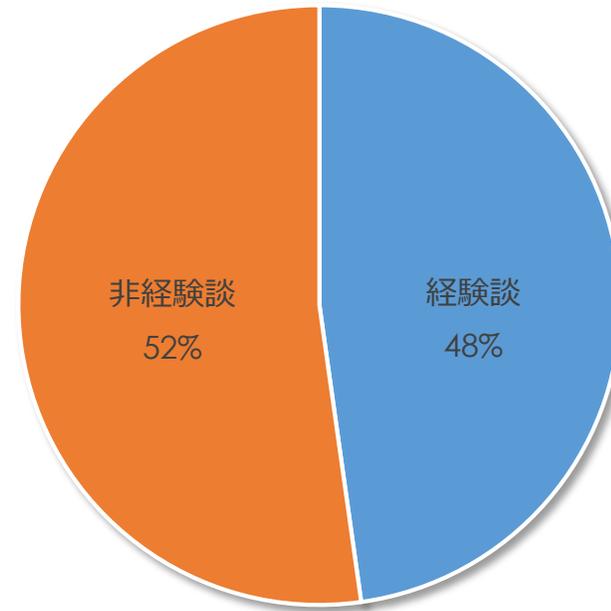
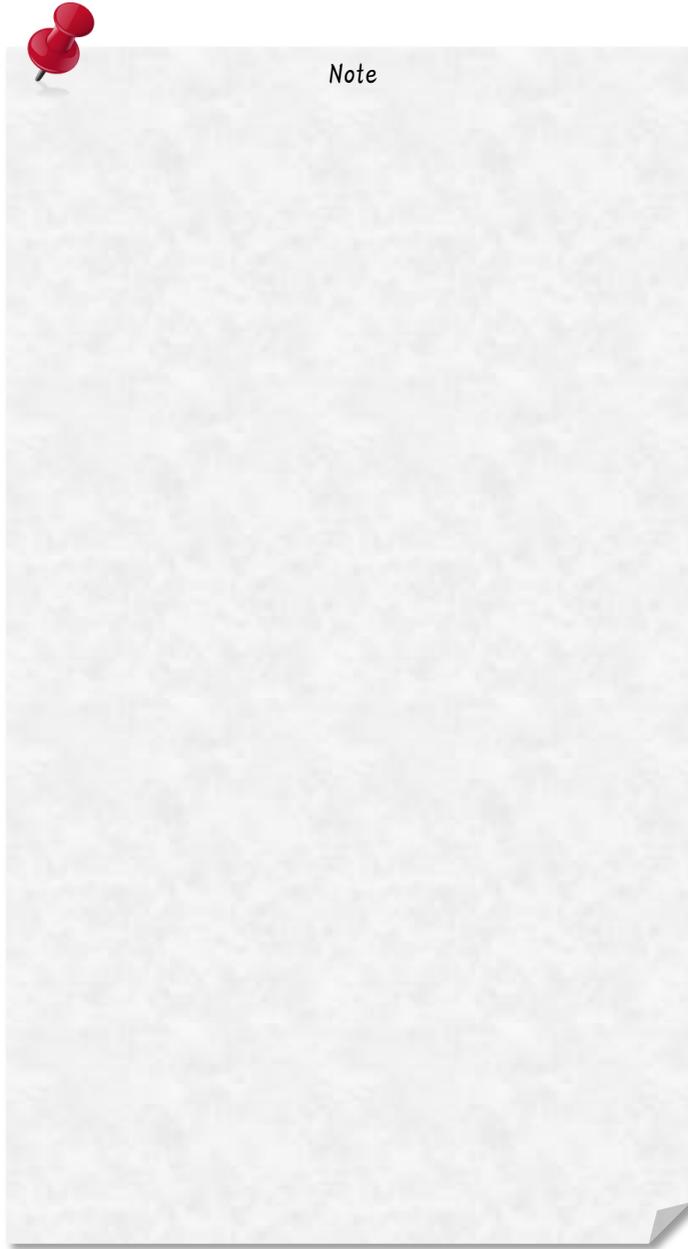


Figure 4.3.4 : ベストアンサー獲得内容比率



## 自身の経験談を含んだ回答データ(ベストアンサー)

 快方に向かった経験を含む内容が多い。

### 回答データ

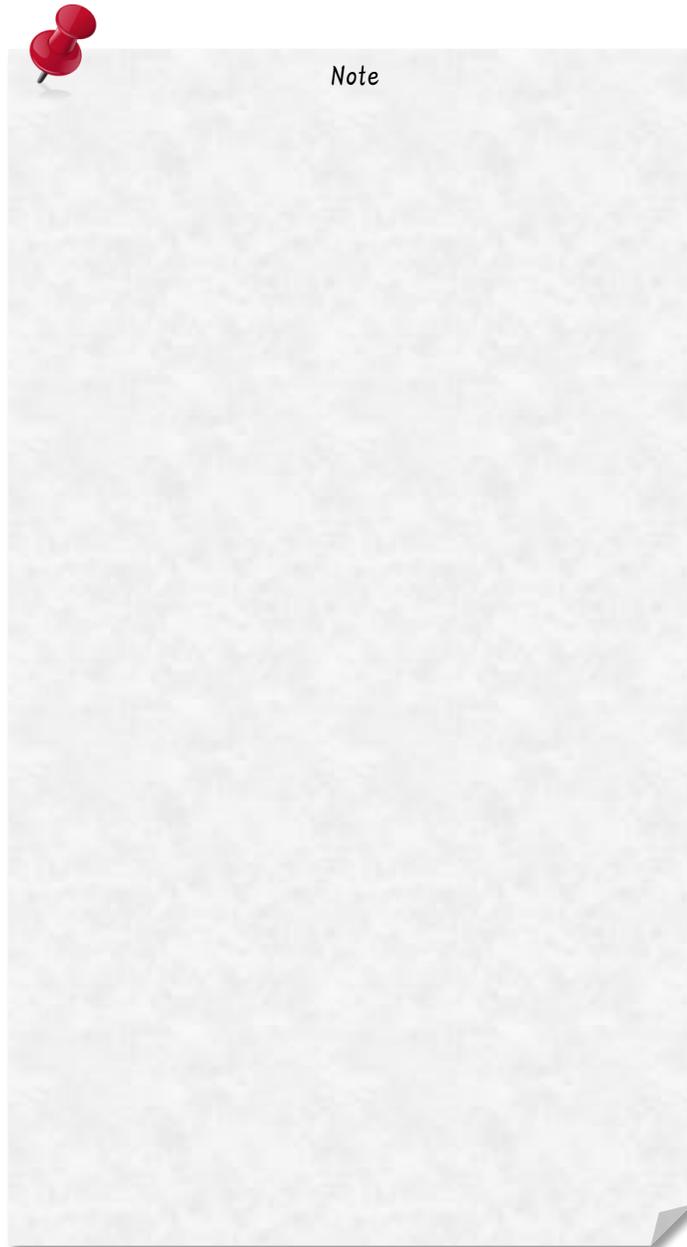
うつ病もあるかもしれませんが、対人恐怖症だと思います。私も人目を避けて行動してしまいます。自分に自信を持てるようになれば改善していくと思います。自分を肯定してくれる人や明るい人に出会えると変わっていくと思いますよ。私は、昔よりは人というのが楽しいと思えてきました。

こんばんは、私は学生のころから今現在も病院に通っています。私も最初は小さな病院に行きそこでうつ病と診断されました。ですが両親はそれを認めたくなかったのか今度はもっと大きな病院の専門医に観てもらおう、と言い出しました。(中略)精神的な痛みは相性のいい先生との方が色々話せますし、ストレスも溜まらなく、治るスピードに違いはあっても、病院に行くのは苦痛ではないと思います。自傷行為をしたこともありましたが、大きな病院の先生は「もうしないと約束して」と言ってきました。しかし最初の病院の先生は「してもいいけど痛いからあんまりしないでほしいなあ」という感じで、このアドバイスを受けてからバタリとやめました。心の問題は自分が納得の行く先生に会うことが大事だと思います、良い先生にめぐり合えるまで転々としてもいいと思います。。

私も大学生の頃、精神系の病気で治療していました。私は長くかかりましたがなんとか卒業しました。先行きがみえないのは、病気、または、メンタルを自分でコントロールできていないからです。(中略)もっともひどかったときは、薬やカウンセリングに加え、医師の診察、療養の4点セットでした。まず、不安感のある程度落ち着け、投薬治療をしつつ、症状が改善し、考えを整理できるようになったらカウンセリング、もちろん、診察も治療の一環でしたので、医師とも相談をしながら。それでも気分が沈むとき、カウンセリングに行きたくなります。しかし保険で見ただけのところ少ないので、今の場所では見つけていません。でも、自分の思考とか、落ち込みに対して対処はできるようになりました。自分で対処できる習慣をつけるだけで、とても、生活しやすくなります。だから、きっとあなたも大丈夫。誰に責められる必要もなく、誰に何を言われるいわれもないです。あなたはあなたで、自分の歩幅で毎日を過ごせばいいと私は思います。私は、私の歩幅で毎日過ごしています。

Table 4.3.1 : 回答データ

 **改善を予感させる経験談が学生には特にプラスになる可能性が高い。**



## 1. 学生と相談者のマッチング

似たような経験から状況が改善した人の体験談などは特に学生からの評価が高く、このような人と学生をマッチングすることでうつ病が要因の退学・中退者を軽減できる可能性がある。



## 4.4 マイノリティ分析



### Note

- ◆ マイノリティ分析は、現在は非常に数が少ないものの、将来的に需要が拡大する可能性のある声を抽出することを目的としている。
- ◆ 本セクションでは、少数意見の中から「復学を望む学生/復学した学生」についてのデータを抽出した。

# 休学状態から復学をめざす人達 質問で使われているワードの関係性の可視化

「休学」「復学」に関する話題が出現している。

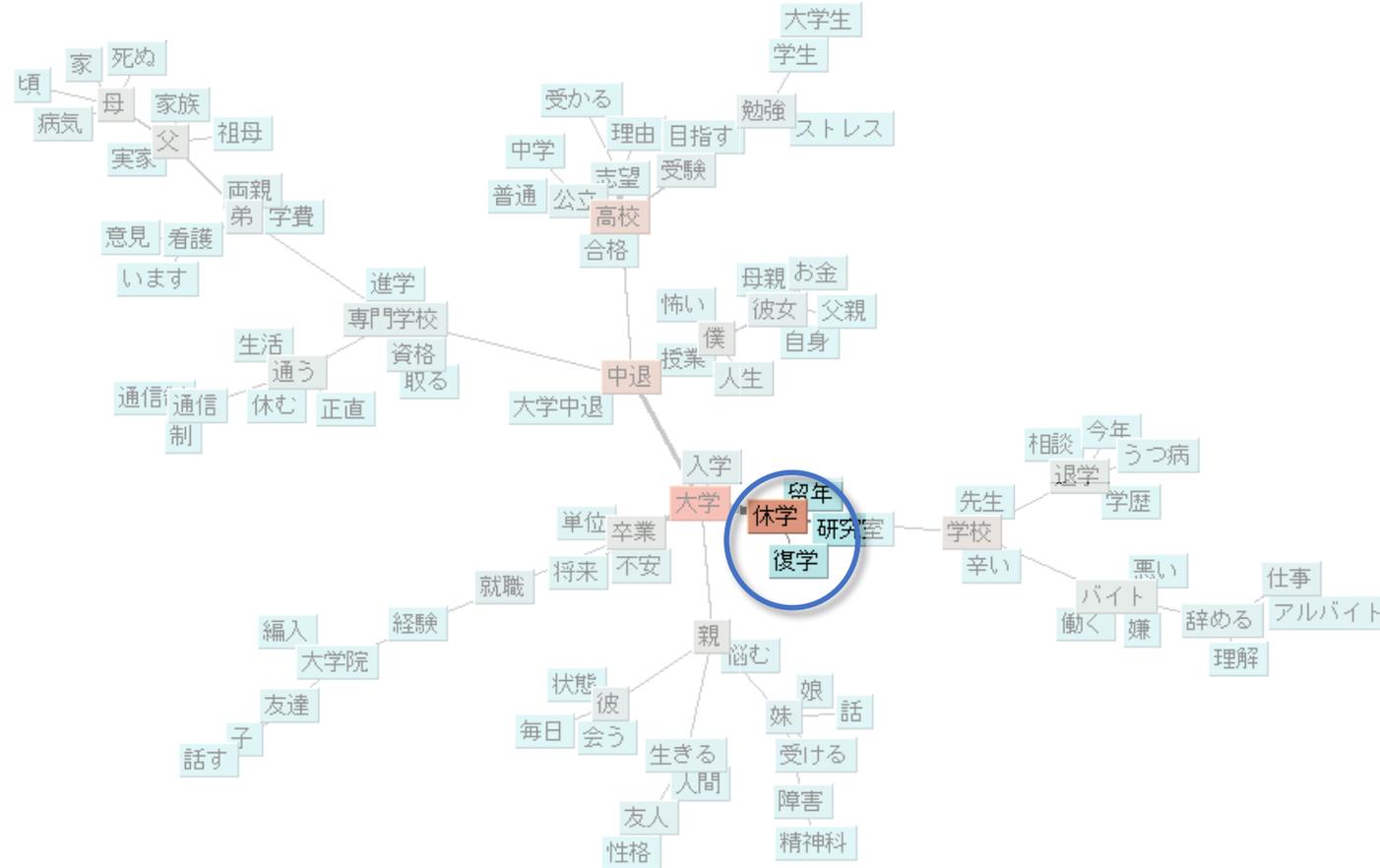


Figure 4.1.8\_2 : 質問データワード関係図

Note

【図の見方】

- 位置に関係なくお互いの相対的な距離が近いほど同じ投稿内で記述されているワード
- 水色 < 灰色 < 赤色の濃淡順に記述されている頻度が高いワード

## 復学者への理解を

### 復学予定・復学した人からの質問データ

 復学への不安や復学してもつらい状況が垣間見れる。

#### 復学者の質問データ

休学から復学への不安。現在20前半、大学休学3年目に入った者です。入学後、大学の講義形態になじめず、レポートの評価もマイチで成績はいつも中ほどでした。(単位が取れなかった授業もちらほら・・・) 一方でサークル・ボランティア活動には積極的に参加し、またバイトにもやりがいを感じ、大学生活を満喫していました。しかしながら、2年後期から人間関係にトラブルが生まれました。(中略)両親に頼み込んで休学、逃亡するかのように地元に戻ってきました。(中略)周囲の目に耐えられそうになかったため、そのまま退学することばかり考えていました。中退してとりあえず近場で働いて、学費で無駄にしてしまったお金を返さなくては、と。しかし**「昨晚とつぜん、「復学したい」と思い始めたのです。(中略)それでも、少人数の専門科目の講義となれば、全く知らない、院生でもない私は、周囲に白い目を向けられるのではないかと心配ではございません。それに、仲の良かった後輩たち、色々気遣ってくれた先輩方、バイト仲間らに何も言わずに逃げてきた手前、どんな接し方をすればいいのかわかりません・・・。一連の出来事が傷になっているのに、また大学で普通に授業を受けられるのか。病気は再発しないだろうか。ただただ、不安ばかりが募ります。(以下略)**

大学中退を考えています。中退を考えている大学生です。簡単な経歴は、私立大学に入学⇒半年で休学⇒一年半休学⇒現在復学して二年が経過。医師にうつ病と診断され休学しました。今現在も通院しています(中略)中退を考えている理由なのですが、講義内容に興味を持てなくなった事と対人関係がギクシャクしてしまったからです。(中略)人間関係ですが、**自分の休学中に同期の人たちは進級してしまい、年下の全く知らない人達に混じって講義を受けています。同期の人たちはもう僕がいないコミュニティを形成してしまっているし、すでに人間関係が出来上がっている年下の中に途中から入った形なので、かなり浮いています。(中略)それでも卒業だけはしよう(大卒資格を得よう)と医師に言われ、今までなんとか踏ん張ってきましたが正直もう一杯一杯です。どれだけつらかったかを知っているのは自分と医師、両親ぐらいです。周りの人はそんなことには興味無く、「大学中退」という経歴が一生ついてまわります。それでも、自分はもうやめたいと考えています。この失敗を次に活かしたいです。皆さんはどう思いますか。**

Table 4.4.1 : 「復学」関連質問データ

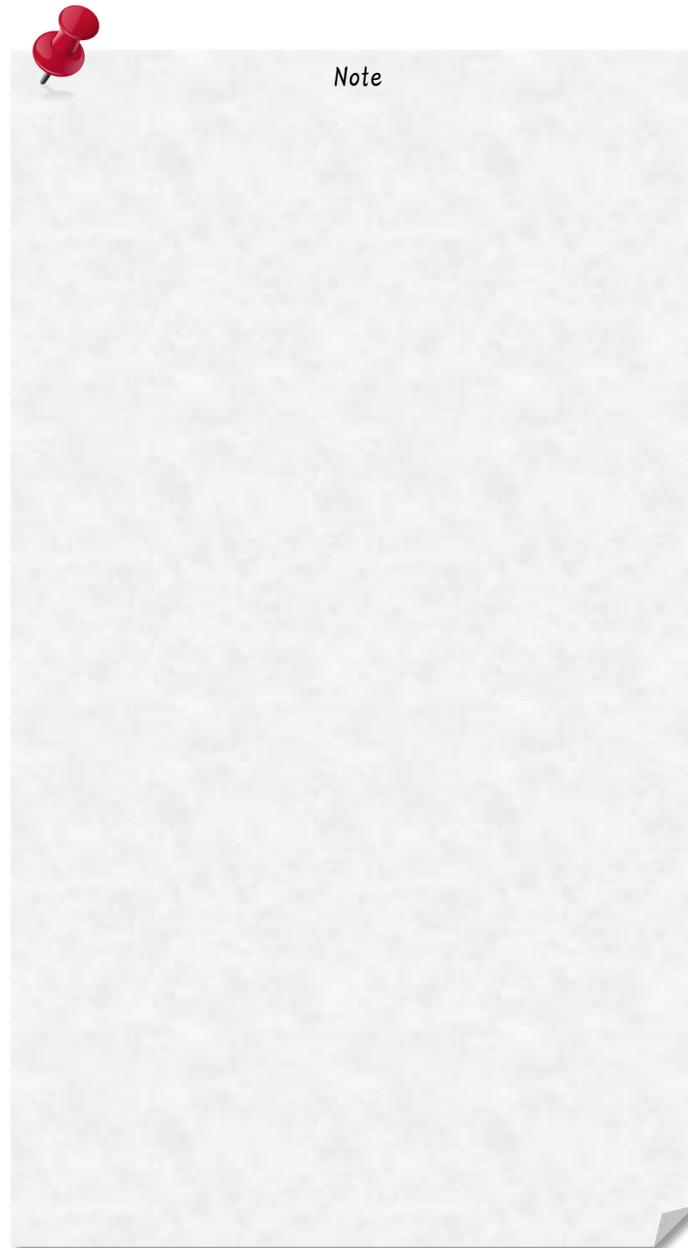
 復学者への理解・サポートの必要性が認められる。



Note

## 1. 休学者への支援・理解促進

休学中に復学を決意した人、または復学を果たした人でも人間関係の不安で状況が改善しないケースが見られる。彼らのサポートを充実させることで質の高い人材の増加につなげられる可能性は高い。



Q & A には発見がいっぱい！

 OKWave総合研究所

<http://www.okwave.co.jp/ri/>

発行日 2014年10月28日

【公式Facebookページ】

<http://www.facebook.com/okwave.ri>

【お問い合わせ】

<http://bit.ly/okwaveri>

【次回予告】

タイトル : 「年賀状」※変更になる場合があります。

発行予定日 : 2014年11月25日